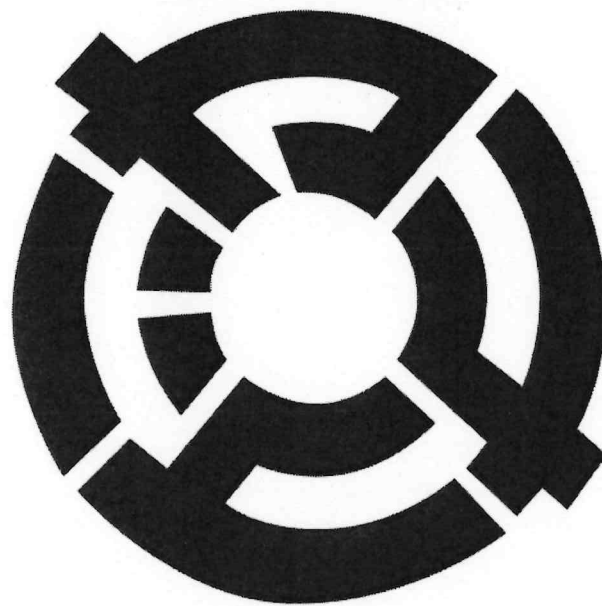


令和 7 年度
教育委員会点検・評価報告書



令和 8 年 8 月
柳津町教育委員会

目 次

は じ め に	-----	1
I 教育委員会の活動状況	-----	2
II 教育委員会重点施策点検・評価一覧表	-----	8
III 各重点施策の点検・評価	-----	11
① 学校教育の充実	-----	12
② 生涯学習の推進	-----	38
③ 生涯スポーツとレクリエーションの推進	-----	40
④ 地域行事の継承、文化財の保存・活用と芸術文化の振興	-----	43
IV 点検・評価に関する有識者の意見	-----	47
1 点検・評価に関する有識者名簿	-----	48
2 点検・評価に関する有識者の意見	-----	49
《 資 料 》		
・柳津町教育委員会の点検・評価の概要	-----	53
・柳津町教育委員会事務管理及び執行状況の点検評価実施要綱	---	54
・用語解説	-----	55

は じ め に

平成19年に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が公布され、「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。」とされました。

柳津町教育委員会は、平成20年度から、法の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たすため、「教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価」を行い、その結果を報告書にまとめ、議会へ提出し、ホームページ等により公表しております。

令和7年度においては、第6次柳津町振興計画に掲げる将来像「みらい創生。ひと・ゆめ・れきしをつなぐまち」、そして教育政策の基本目標である「豊かな心を育むまちづくり」の実現に向け、4つの教育重点施策を積極的に取り組んで参りました。

点検・評価にあたっては、教育委員会の活動状況及び教育重点施策を評価対象とし、また、学識経験者の知見の活用については、本町の教育行政に関わりのある方や小中学校各PTA関係者から、教育委員会が行った点検・評価（自己評価）の結果について、ご意見等をいただきました。

この「点検・評価」の結果を活かし、今後も柳津町の教育行政の一層の充実と発展に努めて参りますので、町民の皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年8月

柳津町教育委員会

I 教育委員会の活動状況

1 教育委員会委員

職 名	氏 名	備 考
教 育 長	神 田 順 一	就任：平成 31 年 4 月 1 日 任期：令和 10 年 9 月 30 日まで
職務代理者	鈴 木 礼	就任：平成 28 年 10 月 1 日 任期：令和 10 年 9 月 30 日まで
委 員	上 田 精 一	就任：令和 3 年 10 月 1 日 任期：令和 11 年 9 月 30 日まで
委 員	鈴 木 喜 代	就任：令和 5 年 10 月 1 日 任期：令和 8 年 9 月 30 日まで
委 員	金 子 陽 亮	就任：令和 5 年 10 月 1 日 任期：令和 9 年 9 月 30 日まで

2 教育委員会の開催状況

- 定例会 1 2 回
- 臨時会 1 回

3 教育委員会の審議・協議・報告の内容

【定例会】

月日	回数	主 な 審 議 ・ 協 議 ・ 報 告 内 容
4/28	第 4 回	・ 令和 7 年 4 月の教育長業務報告について ・ 各学校の年度始めの指示伝達事項について ・ 各学校の人事配置について ・ 柳津町学校運営協議会委員の委嘱について ・ 学力向上に向けた取組みについて ・ 中学校部活動地域展開について
5/30	第 5 回	・ 令和 7 年 5 月の教育長業務報告について ・ 各学校の教育活動の状況について ・ 教職員人事評価管理職期首面談・授業参観の実施について ・ 令和 7 年第 2 回柳津町議会定例会に提出する補正予算について ・ 第 1 回やないづ学校運営協議会について ・ 柳津町部活動の運営方針の見直し案について
6/27	第 6 回	・ 令和 7 年 6 月の教育長業務報告について ・ 各学校の教育活動の状況について ・ 町議会第 2 回定例会の報告について ・ 福島県市町村教育委員会連絡協議会教育委員・教育長研修会と東北・会津ブロック研修会について ・ 義務教育学校の視察研修について ・ 不登校等の児童生徒への対応及び重大事案の未然防止に関するマニュアルについて

		・小中学校における団体徴収金及び学校徴収金事務の取扱要領について ・やないづスポーツフェスタの実施状況について
7/29	第7回	・令和7年7月の教育長業務報告について ・各学校の教育活動の状況について ・令和8年度使用教科用図書採択について ・令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について ・小中校長会視察研修の実施報告について ・第2回やないづ学校運営協議会の報告について
8/28	第8回	・令和7年8月の教育長業務報告について ・令和7年第3回柳津町議会定例会に提出する補正予算について ・学校給食センター運営委員会臨時会の経過報告について ・町教育支援委員会に係る情報共有について ・中学校の休日地域部活動について ・ふれあい館空調設備改修工事について
9/25	第9回	・令和7年9月の教育長業務報告について ・各学校の教育活動の状況について ・町議会第3回定例会の報告について ・教育長の任命に係る議会同意について ・教育委員会委員の任命に係る議会同意について ・教育長職務代理者の指名について ・柳津町立学校教職員旧姓使用取扱要綱の制定について ・令和6年度教育委員会点検・評価報告書について ・ふくしま学力調査結果の分析について ・地域部活動指導者委嘱状交付式、研修会の開催について
10/28	第10回	・令和7年10月の教育長業務報告について ・各学校の教育活動の状況について ・柳津町自治功労者表彰について ・中学生議会について ・教育支援委員会専門委員会議の経過について ・第37回ふくしま駅伝について ・第3回やないづ学校運営協議会の報告について
11/25	第11回	・令和7年11月の教育長業務報告について ・各学校の教育活動の状況について ・令和7年第4回柳津町議会定例会に提出する補正予算について ・やないづ学校運営協議会からの人事に関する要望について ・柳津町地域部活動推進計画（案）について ・福島県体力・運動能力調査の結果について
12/25	第12回	・令和7年12月の教育長業務報告について ・各学校の教育活動の状況について

		・町議会第4回定例会の報告について ・振興計画の基本計画（後期）の策定について ・町地域学校保健委員会の経過について ・令和8年度教育課程の編成について
1/30	第1回	・令和8年1月の教育長業務報告について ・各学校の教育活動の状況について ・令和8年度当初予算査定について ・令和7年度末教職員の人事異動について ・第4回やないづ学校運営協議会の報告について ・地域部活動の運営に係る検討会議の報告について
2/26	第2回	・令和8年2月の教育長業務報告について ・各学校の教育活動の状況について ・卒業証書授与式等について ・町教職員離任式・教職員歓迎披露式について ・令和8年第1回柳津町議会定例会に提出する令和7年度補正予算及び議案について ・令和8年第1回柳津町議会定例会に提出する令和8年度当初予算について ・柳津町立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画（案）の策定について ・柳津町外国語指導助手任用規則の一部を改正する規則について ・令和5年度教育委員会点検・評価報告書について ・第5回やないづ学校運営協議会の報告について
3/27	第3回	・令和7年3月の教育長業務報告について ・各学校の教育活動の状況について ・町議会第1回定例会の報告について ・教職員人事異動・町会計年度任用職員採用について ・令和7年度第2回柳津町・三島町学校給食センター運営委員会定例会の報告について ・柳津町教職員ストレスチェック制度実施要綱の制定について ・柳津町学校適正配置等検討委員会設置要綱の制定について ・令和8年度柳津町の教育重点施策について ・令和8年度やないづ学校運営協議会の方向性について ・令和8年度地域部活動練習計画の予定について

【臨時会】

月 日	回 数	主 な 審 議 ・ 協 議 ・ 報 告 内 容
3/3	第1回	令和8年度柳津町立学校職員の人事について

4 教育委員会委員の主な活動（学校行事・研修、生涯学習関係行事等）

月	日	主 な 活 動	出席者
4	3	町教職員歓迎披露式	教育委員
	7	小・中学校入学式・始業式	教育委員
	30	町教育研究会総会	教育委員
5	7	県市町村教育委員会連絡協議会両沼支会評議員会	教育長職務代理者
	8	県市町村教育委員会連絡協議会総会	教育長職務代理者
	9	町小・中学校PTA連絡協議会総会	教育委員
	17	柳津小運動会	教育委員
	24	西山小運動会	教育委員
	30	県市町村教委連協両沼支会春季総会（金山町）	教育委員
	30	町総合教育会議	教育委員
7	1	社会を明るくする運動駅頭広報	教育長職務代理者
	10	東北六県市町村教育委員会連合会総会及び教育委員 ・教育長研修会（いわき市、ほか）	教育委員
	11		
	22	町小学校水泳記録会	教育委員
	24	町いじめ問題対策連絡協議会	教育長職務代理者
	29	県市町村教育委員会会津ブロック研修会（磐梯町）	教育委員
8	6	義務教育学校研修視察（河東学園）	教育委員
	15	町成人式～二十歳のつどい～	教育委員
	20	県市町村教育委員会連絡協議会教育委員・教育長 研修会（福島市）	教育委員
9	12	斎藤清美術館「秋季特別企画展」 オープニングセレモニー	教育委員
	25	町小学校陸上記録会	教育委員
10	1	教育長並びに教育委員任命書交付式	教育委員
	14	義務教育学校研修視察（本郷学園）	教育委員
	18	柳津小秋まつり	教育委員
		西山小きらきらフェスタ	
	22	県市町村教育委員会連絡協議会両沼支会評議員会	教育長職務代理者
		県市町村教育委員会連絡協議会両沼支会秋季総会・ 研修会（昭和村）	教育委員
	25	柳学中文化祭「柳輝祭」	教育委員
11	1	町小・中学校PTA連絡協議会「教育講演会」	教育委員
	20	第1回町海外派遣事業実行委員会	教育長職務代理者
	27	柳津町合併70周年記念式典	教育委員
1	9	町PTA連絡協議会新年会	教育委員
	27	第2回町海外派遣事業実行委員会	教育長職務代理者

2	1 9	町いじめ問題対策連絡協議会	教育長職務代理者
3	1 3	中学校卒業証書授与式	教育委員
	2 3	小学校修了・卒業証書授与式	教育委員
	2 7	町教職員離任式	教育委員

5 教育委員会活動の情報発信

- ◆ 町広報誌「広報やないづ」や「やないづ教育ねっと」に掲載

Ⅱ 教育委員会重点施策 点検・評価一覧表

Ⅱ 柳津町教育委員会重点施策点検・評価一覧表

重点施策	基本事業	主な取り組み内容	達成度	事務担当
学校教育の充実	1 確かな学力の向上 (かしこい子どもに)	「確かな学力向上グランドデザイン」による学習指導 柳津町学力向上推進事業(町教研への委託) 全国標準学力検査及びリーディングスキルテストの実施	B	学校教育係
	2 豊かな心の育成 (意欲をもってやり抜く子どもに)	道徳教育、特別活動における指導 体験的活動、ボランティア活動の重視 学校図書の整備と読書活動の推進 いじめ、問題行動の早期発見、早期対応	B	
	3 健やかな身体の育成 (たくましい子どもに)	学校保健体育、部活動の指導 食育計画の作成と指導 全国体力テストの実施	B	
	4 特別支援教育の充実	教育支援委員会の開催 特別支援学級の整備	B	
	5 小・中(小・小)連携教育の 充実	小・中学校間連携教育の推進 小・小学校間連携教育の推進	B	
	6 情報教育の充実	学校教育用タブレット等ICT整備事業 情報モラル教育の推進	B	
	7 英語教育・国際理解教育の 充実	英語教育の推進 外国語指導助手招致事業	B	
	8 教育環境・条件の整備充実	教材教具整備事業 就学援助事業 児童生徒通学費補助事業 高校生奨学金貸与事業 教職員福利厚生事業 教員住宅管理事業 スクールバス運行事業 複式指導解消支援教員の配置 学校施設等改修整備事業 英語・数検・漢検検定料補助事業	B	

達成度 A=十分に達成 B=ほぼ達成 C=やや不十分 D=不十分

Ⅱ 柳津町教育委員会重点施策点検・評価一覧表

重点施策	基本事業	主な事務事業	達成度	事務担当
生涯学習の推進	1 興味・関心を抱く学習機会の創出と町民同士の交流促進	シニアサークル「福寿学園」「養寿学園」の開催 成人学級「悠友倶楽部」の開催 料理教室の開催 その他の教室 地域文化財利活用事業	B	生涯学習係
	2 社会教育施設の設備等の充実	活性化施設「ふれあい館」管理運営事業 図書館整備事業 地区集会所施設の整備補助事業	A	
生涯スポーツとレクリエーションの推進	1 楽しさを感じるスポーツ事業の提供	各種町民スポーツ大会等の開催 県総体地域スポーツ大会への参加 ふくしま駅伝競走大会への参加 市町村対抗軟式野球大会・ソフトボール大会への参加 町スポーツ協会運営事業 スポーツ推進委員会の開催と活動	B	生涯学習係
	2 スポーツ施設及び設備の整備充実	運動公園施設整備事業	B	
	3 指導者の確保とスポーツ団体への支援	町スポーツ協会及びスポーツ推進委員会の活動支援 赤ベクトータルスポーツの活動支援	C	
地域行事の継承、文化財の保存・活用と芸術文化の振興	1 文化財の適切な保存・管理	町指定文化財管理事業 縄文館活用事業 食文化ストーリー事業 地域・日本の新たなレガシー形成事業 文化財火災防御訓練の実施	A	生涯学習係
	2 有識者、関係機関との連携	柳津町文化財保護審議会の開催 有識者や関係機関との協力	A	
	3 やないづ町立斎藤清美術館の充実	斎藤清展事業 県外斎藤清展推進事業 潜在的アートプロジェクト事業、地域アートプロジェクト事業 作品等収集 施設整備	B	美術館係

達成度 A=十分に達成 B=ほぼ達成 C=やや不十分 D=不十分

Ⅲ 各重点施策の点検・評価

【学校教育の充実】

基 本 事 業	1 確かな学力の向上(かしこい子どもに)	
取 組 の 状 況	各校において次の指導や活動・事業を実施した (1)「学力向上グランドデザイン」による学習指導 (2)柳津町学力向上推進事業(町教研への委託) (3)全国標準学力検査及びリーディングスキルテストの実施	
成 果 と 評 価	柳津小 B 西山小 A 柳学中 B	全体としての達成度
		B
次 年 度 へ の 課 題	町全体としては、 ○「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業における教師のコーディネート力の向上(発問・つなぎ・共有) ○読解力を含む基礎学力の確実な定着と活用力を高める指導の充実 ○個別最適な学び(少人数・自由進度等)の効果的活用と授業改善の継続 ○家庭学習の質的向上(自己マネジメント力・メディアコントロールを含む)	

基 本 事 業	2 豊かな心の育成(意欲をもってやり抜く子どもに)	
取 組 の 状 況	各校において次の指導や活動・事業を実施した (1)道徳教育・特別活動における指導 (2)体験的活動、ボランティア活動の重視 (3)学校図書の整備と読書活動の推進(図書司書2名配置) (4)いじめ、問題行動の早期発見、早期対応	
成 果 と 評 価	柳津小 B 西山小 A 柳学中 B	全体としての達成度
		B
次 年 度 へ の 課 題	町全体としては、 ○自己肯定感・非認知能力を高める指導の充実(対話・承認・体験活動) ○読書活動の家庭への広がりや読書習慣の定着 ○多様な人との関わりを通じた社会性の育成(少人数・人間関係固定化への対応) ○いじめ・不登校の未然防止と組織的対応の継続強化	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基 本 事 業	3 健やかな身体の育成(たくましい子どもに)	
取 組 の 状 況	各校において次の指導や活動・事業を実施した (1)学校保健体育、部活動の指導 (2)食育計画の作成と指導 (3)全国体力テストの実施 学校教育係において次の事業・活動を実施した (1)学校給食センター運営委員会定例会(2回)及び臨時会(1回)の開催 (2)児童生徒の学校給食費無償化 (3)学校給食モニタリング事業の実施	
成 果 と 評 価	柳津小 B 西山小 B 柳学中 B	全体としての達成度
		B
次 年 度 へ の 課 題	町全体としては、 ○体力テスト結果を踏まえた計画的・継続的な体力向上の取組 ○少人数環境に応じた運動機会の確保(チームスポーツの工夫等) ○食育・生活習慣改善(朝食・肥満・歯科保健)の家庭連携強化 ○部活動の在り方や地域移行への対応	

基 本 事 業	4 特別支援教育の充実	
取 組 の 状 況	各校において次の指導や活動・事業を実施した (1)教育支援委員会の開催 (2)特別支援学級の整備 ○柳津小学校 1学級(4名) ○西山小学校 設置なし ○会津柳津学園中学校 2学級(4名) ○特別支援教育支援員の配置・・・柳津小学校3名 会津柳津学園中学校1名	
成 果 と 評 価	柳津小 B 西山小 B 柳学中 B	全体としての達成度
		B
次 年 度 へ の 課 題	町全体としては、 ○個別の指導計画・支援計画の作成・活用・見直しの徹底 ○通常学級における支援を含めた校内支援体制の強化と全職員の共通理解 ○医療・福祉・教育機関との連携強化による多面的支援 ○保育所・小学校・中学校間で切れ目のない支援の継続	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基 本 事 業	5 小・中(小・小)連携教育の推進	
取 組 の 状 況	各校において次の指導や活動・事業を実施した (1)小・中学校間連携教育の推進 (2)小・小学校間連携教育の推進	
成 果 と 評 価	柳津小 A 西山小 B 柳学中 B	全体としての達成度
		B
次 年 度 へ の 課 題	町全体としては、 ○交流活動の質的向上(形式的交流から心理的つながりへ) ○円滑な接続に向けた計画的・継続的な交流と情報共有 ○行事・活動の時期や内容の精選(安全面・負担軽減への配慮) ○9年間を見通した指導・支援の体系化	

基 本 事 業	6 情報教育の充実	
取 組 の 状 況	各校において次の指導や活動・事業を実施した (1)学校教育用タブレット等ICT整備事業 (2)情報モラル教育の推進	
成 果 と 評 価	柳津小 A 西山小 A 柳学中 B	全体としての達成度
		B
次 年 度 へ の 課 題	町全体としては、 ○ICT活用と「書く・読む」力のバランスを意識した授業改善 ○教員のICT活用指導力のさらなる向上と校内研修の充実 ○情報モラル・SNSトラブル防止に向けた家庭との連携強化 ○個別最適な学びを支えるICT活用の工夫	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基 本 事 業	7 英語教育・国際理解教育の充実	
取 組 の 状 況	各校において次の指導や活動・事業を実施した (1)英語教育の推進 (2)外国語指導助手招致事業	
成 果 と 評 価	柳津小 B 西山小 B 柳学中 B	全体としての達成度
		B
次 年 度 へ の 課 題	町全体としては、 ○小中の接続を意識した系統的な英語指導の充実 ○「聞く・話す」を中心とした実践的コミュニケーション能力の向上 ○ICTや外部人材を活用した英語使用場面の拡充 ○異文化理解を深める体験活動の充実と公民館事業との連携	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[生きる力を育む学校教育の充実]

(学校名 柳津小学校)

基 本 事 業	1 確かな学力の向上		
取組の状況	(1) 「確かな学力向上グランドデザイン」による学習指導 ○ 町赤べこプランを周知し、自校のプランの共通実践 ○ 「分かった・できた・楽しい」主体的・対話的な授業の実践 ・ 学力向上につながる I C T 機器の効果的な活用 (個別最適な学び、協働的な学び) ・ 学習内容が分かるめあての提示 ・ 活用力育成のための練習・補充の時間確保 ・ 複数教員や支援員による T・T 指導、個に応じた学習 ・ 単元ごとの確実な「わかった・できた」子どもの把握 (単元テスト、アシストシート、全国学力・学習状況調査、ふくしま学力調査) ○ 町教研「公開授業研究会」の授業実践 ・ I C T を活用した協働的な学びについての研究 ・ 主体的・対話的に学ぶ児童の育成 ○ 学習の環境作り ・ 「赤べこプラン」の掲示、系統性を意識した指導 ・ 「ノート DAY」「自主学習コンテスト」の実施 ○ 家庭学習の習慣化 ・ 「家庭学習の手引き」の活用と保護者との連携（「家庭教育だより」の発行） ・ メディアコントロール週間の設定と自主学習の習慣化 (2) 柳津町学力向上推進事業（町教研への委託） ○ 「主体的・対話的に学ぶ児童の育成」を目指した校内研修の充実 ○ I C T 機器の効果的な活用 (3) 全国標準学力検査の実施 ○ 国・県学力調査を利用した補充指導 ○ アシストシート・フォローアップシートの活用		
成果と評価	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="293 1240 1331 1621"> ○ 「学力向上グランドデザイン」による学習指導 学習内容がわかるめあての提示、活用力育成のための練習・補充の時間確保や児童の学習意欲を高める I C T の効果的な活用ができた。 ○ 教務や支援員による T・T 指導や個に応じた指導により、つまづき克服のための個別指導に重点をおいて指導した。 ○ 家庭学習の手引きや I C T を活用し、家庭と連携して家庭学習の習慣化を図った。 ○ 全児童に配付された I C T 機器を効果的に活用して、児童同士の協働的な学び合いと一人一人の児童の深い学びを実現するように努めてきた。 ○ ノート DAY や自主学習コンテストを実施することで、より良いノートのつくり方や学習の進め方を広めることができた。 </td><td data-bbox="1331 1240 1445 1621"> 達成度 B </td></tr> </table>	○ 「学力向上グランドデザイン」による学習指導 学習内容がわかるめあての提示、活用力育成のための練習・補充の時間確保や児童の学習意欲を高める I C T の効果的な活用ができた。 ○ 教務や支援員による T・T 指導や個に応じた指導により、つまづき克服のための個別指導に重点をおいて指導した。 ○ 家庭学習の手引きや I C T を活用し、家庭と連携して家庭学習の習慣化を図った。 ○ 全児童に配付された I C T 機器を効果的に活用して、児童同士の協働的な学び合いと一人一人の児童の深い学びを実現するように努めてきた。 ○ ノート DAY や自主学習コンテストを実施することで、より良いノートのつくり方や学習の進め方を広めることができた。	達成度 B
○ 「学力向上グランドデザイン」による学習指導 学習内容がわかるめあての提示、活用力育成のための練習・補充の時間確保や児童の学習意欲を高める I C T の効果的な活用ができた。 ○ 教務や支援員による T・T 指導や個に応じた指導により、つまづき克服のための個別指導に重点をおいて指導した。 ○ 家庭学習の手引きや I C T を活用し、家庭と連携して家庭学習の習慣化を図った。 ○ 全児童に配付された I C T 機器を効果的に活用して、児童同士の協働的な学び合いと一人一人の児童の深い学びを実現するように努めてきた。 ○ ノート DAY や自主学習コンテストを実施することで、より良いノートのつくり方や学習の進め方を広めることができた。	達成度 B		
次年度への課題	○ 「授業スタンダード」や「赤べこプラン」を活用して、日々の授業をさらに充実させるとともに 45 分間の授業内容のポイントを的確に示し、何を学んだかがわかる授業を一層充実させ、学力の向上を図る。また、協働的な学びをさらに推進するために学び合う場面を効果的に取り入れる意識を高めた授業を展開する。 ○ 効果的な I C T 機器の活用場面を考え、話す・聞く・書く・読むとのベストミックスを考えながら指導方法を検討していく。 ○ アシストシートや活用力育成シートを各学期に効果的に活用し、基礎学力の確かな定着と活用力の育成に努める。 ○ 学年に応じて I C T を適宜活用し、家庭学習や自主学習の取り組み方について家庭と連携しながら、家庭学習の習慣化を図る。 ○ 読解力を高める方策についての研修を行い、日常の授業に取り入れることができるようにする。		

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[生きる力を育む学校教育の充実]

(学校名 柳津小学校)

基 本 事 業	2 豊かな心の育成		
取組の状況	(1) 道徳教育、特別活動における指導 ○ 道徳の授業の充実と日々の道徳的実践力の向上 ○ 道徳教育指導内容の日常的な活用 ○ 自主的・自律的な態度並びに互いに賞賛し合える態度の育成 ○ 自己理解の推進と自己存在感や自己肯定感の向上 ○ 人権教育の充実 (2) 体験的活動、ボランティア活動の重視 ○ 米づくり体験活動(4・5年) ※JA、農青連の協力 ○ 森林環境学習(全学年) ※町農林振興係の協力 ○ 町小学校合同宿泊学習(5年)、合同修学旅行(6年) ○ 各教科、総合的な学習、生活科における体験的活動(各学年) ・町の観光、歴史、町探検、見学、調査等 ・遠足における豊かな体験活動(1～4年) ・西山小との交流学习の充実(ICTを活用したオンライン交流) ○ 小中合同除草、ごみ拾い (3) 学校図書の整備と読書活動の推進 ○ 年間を通した読書冊数の向上・図書室来室児童数の向上 ○ 各学年の読み聞かせの実施(町読み聞かせボランティアの活用) ○ 図書館教育担当教員と図書館司書の連携による読書意欲の喚起 ・読書キャンペーンの実施 ○ 各学年の必読書の設定と読書マラソン及び家読の推進 (4) いじめ、問題行動の早期発見、早期対応 ○ 教育相談(児童年3回、保護者年1回)といじめアンケートの実施 ○ QUを活用した実態把握と課題に基づく指導・人間関係の改善、SCとの連携		
成果と評価	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="296 1227 1326 1675"> ○ 人権擁護委員の協力により、第5学年において人権への理解を図る授業を実施することができた。 ○ 秋まつりやファミリー学級では、各学年が調べたり取り組んだりしてきた学習の成果を発表し、地域人材の協力を得ながら工夫して学習を展開することができた。 ○ 遠足、宿泊学習、修学旅行では、豊かな体験活動によって知見を広げることができた。 ○ 読書に関する様々なキャンペーンを実施することで、図書室来室数と読書冊数の向上に努め、家庭との連携を図ることができた。 ○ いじめ問題や児童の様々な問題について、学校全体で共有を図り、教職員と家庭とが連携して、早期発見・早期対応による解決に向けた組織的な取り組みを実施することができた。 ○ 町役場や中央公民館と連携し、地域素材を扱った学習を推進した。 </td><td data-bbox="1326 1227 1441 1675"> 達成度 B </td></tr> </table>	○ 人権擁護委員の協力により、第5学年において人権への理解を図る授業を実施することができた。 ○ 秋まつりやファミリー学級では、各学年が調べたり取り組んだりしてきた学習の成果を発表し、地域人材の協力を得ながら工夫して学習を展開することができた。 ○ 遠足、宿泊学習、修学旅行では、豊かな体験活動によって知見を広げることができた。 ○ 読書に関する様々なキャンペーンを実施することで、図書室来室数と読書冊数の向上に努め、家庭との連携を図ることができた。 ○ いじめ問題や児童の様々な問題について、学校全体で共有を図り、教職員と家庭とが連携して、早期発見・早期対応による解決に向けた組織的な取り組みを実施することができた。 ○ 町役場や中央公民館と連携し、地域素材を扱った学習を推進した。	達成度 B
○ 人権擁護委員の協力により、第5学年において人権への理解を図る授業を実施することができた。 ○ 秋まつりやファミリー学級では、各学年が調べたり取り組んだりしてきた学習の成果を発表し、地域人材の協力を得ながら工夫して学習を展開することができた。 ○ 遠足、宿泊学習、修学旅行では、豊かな体験活動によって知見を広げることができた。 ○ 読書に関する様々なキャンペーンを実施することで、図書室来室数と読書冊数の向上に努め、家庭との連携を図ることができた。 ○ いじめ問題や児童の様々な問題について、学校全体で共有を図り、教職員と家庭とが連携して、早期発見・早期対応による解決に向けた組織的な取り組みを実施することができた。 ○ 町役場や中央公民館と連携し、地域素材を扱った学習を推進した。	達成度 B		
次年度への課題	○ 人権擁護への関心を高めるために、人権教育の授業を全学年で実施する。 ○ 学校と保護者との連携により、家庭での読書習慣の充実を図る。 ○ メディアコントロール等への取り組みを通し、児童の自己マネジメント力を高める指導を継続する。 ○ QU検査等客観的な資料をもとに学級力の向上を図るための研修を開催し、児童一人ひとりを認め・誉め・励ます声かけと児童と教師の対話を組織的に行い、積極的な生徒指導を充実させ、自己肯定感・非認知能力の向上を図るようにする。		

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基 本 事 業	3 健やかな身体の育成	
取組の状況	(1) 学校保健体育等の指導 ○ 運動への意欲や技能を高める授業の充実 ・「運動身体作りプログラム」の実践 ・業間のマラソンやなわとびの取り組み ○ 運動会や水泳学習、マラソン記録会へ向けての教科体育の充実 ○ 外部人材の活用（外部指導員、中学校教諭、特別非常勤講師による指導） ○ う歯の治療率を高めるための保護者との連携 ・歯磨きカレンダー、カラーテスターの実践 ・保護者への啓発 ○ 肥満傾向児童への個別支援と外部機関との連携（個別指導・体組成検査） ○ 町小・中学校合同による学校保健委員会の実施 ○ 養護教諭による全学年での保健授業の実施 (2) 食育計画の作成と指導 ○ 「朝食摂取率100%週間」運動の実施（6月、11月） ○ 「全国学校給食週間」での取り組み・「給食の歴史」の紹介、特別献立の実施など ○ 「自分で作るお弁当の日」の実施 (3) 全国体力テストの実施 ○ 新体力テストの結果分析と体力向上推進計画を踏まえた指導の充実	
成果と評価	○ 「運動身体作りプログラム」を授業のはじめに取り入れ、基礎的な動作を身につけることができるよう全校で取り組んだ。 ○ 運動会や水泳学習、マラソン記録会では、児童が自己の目標に向かって意欲的に練習に取り組み、成果を上げることができた。 ○ 中学校教諭や会計年度任用職員（特別非常勤講師）の指導による陸上運動や水泳学習、表現運動（ダンス）を実施できた。 ○ 栄養教諭と連携しながら食育指導について継続的に取り組んできた。朝食調べ等を活用し、食べ方や偏食について指導を続け、改善が見られるようになった。 ○ 「自分で作るお弁当の日」を実施した結果、家族と一緒に意欲をもって楽しんで作る児童が多くなった。 ○ 体力テスト結果を分析し、教科体育の指導に生かすことができた。 ○ 養護教諭が全学年の授業に関わり、専門的な知識を得ながら授業を実施することができた。	達成度 B
次年度への課題	○ 新体力テストの結果をもとに課題を分析し、体力向上推進計画を基にした教育課程の策定と重点的な指導に努める。 ○ 教科体育の充実を核として継続的に体力・運動能力の向上に努める。 ○ 栄養教諭との連携を図った食育の授業実践を進める。 ○ 肥満傾向をもつ児童や偏食が見られる児童について、学校における食育及び給食指導を中心に、家庭へも呼びかけ、連携を図りながら継続的に指導する。 ○ 日課表に位置付けたマラソントime（冬期間はなわとび）を実践することで、体を動かす機会を増やし体力や運動能力を高める。また、体力向上推進計画を全職員で共通理解し課題改善に向け共通実践する。 ○ 養護教諭と連携した保健教育の充実を図る。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基 本 事 業	4 特別支援教育の充実	
取組の状況	(1) 教育支援委員会の開催 ○ 特別支援学級の在籍児童及び次年度特別支援学級入級希望者の情報提供 ○ 各児童の情報及び専門委員による観察結果をもとにした就学に係る審議 ・在籍児童（自閉・情緒障がい学級） 2 学年 男児 1 名 5 学年 男児 2 名 6 学年 男児 1 名 ○ 特別支援教育委員会の定期的な開催と特別な支援を要する児童の支援状況についての共通理解 (2) 特別支援学級の整備 ○ 日程を確認するためのホワイトボードや時計の設置など、教室環境の整備 ○ 児童への日々の指導支援 ・特別支援学級担任と学年担任・支援員の協力連携による指導 ・教科別での交流学級との学習・生活の交流 ・通常学級在籍児童の取り出し指導 ○ 外部機関や保護者との連携・協議 ・保育所、町教育支援委員会、医療機関との連携 ・保護者との懇談と共通理解 ・実態に応じた教育課程の編成 ○ 会津教育事務所、特別支援学校による授業視察	
成果と評価	○ 支援員や担任外教員が通常学級における特別な支援を要する児童の指導支援にあたったり、取り出し指導を行ったりすることにより、児童一人一人のニーズに応じたきめ細かな指導支援や担任のサポートを行うことができた。 ○ 担任と管理職が協力して支援を要する児童やその保護者に対し、ケース会議を開き、情報共有しながら対応し組織的に就学指導を進めることができた。 ○ 就学指導委員会を定期的に開催し、情報の共有を図った。気になる児童については管理職と連携しケース会議を開催したりカウンセリングにつないだりしたことで、児童の実態把握ができた。 ○ 会津教育事務所・特別支援学校より授業視察を受け、児童の関わり方、教員同士の連携、支援・指導方法を改めて学び、日頃の生活指導や授業に活かすことができた。	達成度 B
次年度への課題	○ 個別の指導計画や支援計画に基づき、計画的な指導・支援を行い記録簿に累積する。 ○ 必要に応じて教育委員会、SSW、SC、町保健師、養護学校、会津教育事務所、医療機関などの関係機関との連携を図り、適切な就学指導に努める。 ○ 通常学級に在籍する特別な支援を要する児童への指導方法等を検討し組織的な取組をする。 ○ 保育所・中学校との連携を取り、就学前や卒業後の情報交換を行うことで、切れ目のない一貫した指導の充実を図る。 ○ 特別に支援を要する児童について、全職員が共通理解のもと、組織的に指導にあたる。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[生きる力を育む学校教育の充実]

(学校名 柳津小学校)

基 本 事 業	5 小・中連携教育の推進	
取組の状況	(1) 小・中学校間連携教育の推進 ○ 小中連携授業参観の実施 (校内研究における授業を通して) ○ 小中連携協議会実施 ○ 合同避難訓練、合同除草(中止)、合同ボランティア(中止)の実施 ○ 6年生の中学校体験学習の実施(年1回) ○ 「町教研公開授業研究会」での授業実践と参観 西山小学校によるICTを活用した授業実践の参観 (2) 小・小学校間連携教育の推進 ○ 宿泊学習事前学習会 ○ 合同宿泊学習 ○ 修学旅行事前学習会 ○ 合同修学旅行 ○ オンライン朝交流の実施(年間)	
成果と評価	○ 5・6年生は年間を通して朝交流を行い、宿泊学習や修学旅行前の意識を高めるとともに、6年生は中学校進学にむけた交流を図ることができた。 ○ 授業交流を通して、ICT活用に関する共通認識を深めることができた。 ○ 会津柳津学園中学校とは合同除草・ボランティアは中止になったが、合同避難訓練は実施することができた。中学校体育館へ避難し、地区ごとや兄弟関係を把握したことで保護者への引き渡しができる体制を共有したことで、児童生徒の協力意識を高めることができた。 ○ 合同宿泊学習・修学旅行を実施することで、中学校進学に向けた仲間意識を高めることができた。また、オンライン交流を通して児童相互の交流を深めることができた。	達成度 A
次年度への課題	○ 小中連携については、中学校と相談し、合同避難訓練や合同除草、合同ボランティアの時期を工夫して教育課程を作成する。 ○ 西山小学校との交流については、中学校への進学に向けてスムーズな学校生活を実施するための深い交流を継続していく。 ○ 低学年を中心とした保育所との交流・連携を実施する。 ○ 小中連携の視点で、校庭等の施設管理・安全管理を協力して行う。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[生きる力を育む学校教育の充実]

(学校名 柳津小学校)

基 本 事 業	6 情報教育の充実	
取組の状況	(1) 学校教育用パソコン等 I C T 整備事業 ○ I C T 機器の効果的な活用と授業の充実・改善 ○ デジタル教科書の活用と i p a d の活用による学習の効率化 ○ I C T 機器の活用による、児童一人ひとりの習熟度や学習速度に応じたきめ細やかな指導の充実 ○ i p a d を活用した研究授業・互見授業の実施 ○ 関係機関との連携による環境整備の充実 ○ I C T 支援員による授業支援と事前準備 ○ プログラミング学習の充実 (2) 情報モラル教育の推進 ○ 学級活動や道徳の授業を生かした情報モラル意識の向上	
成果と評価	○ I C T 機器を学習に効果的に活用することで、個別最適な学びと児童相互の学び合い、一人一人の深い学びを実現することができた。 ○ 学級活動や道徳等で随時情報モラルについての指導を継続することによって、メディアを適切に活用しようとする意識が見られた。 ○ 「ふくしま情報モラル診断」を 2 回実施し、段階を踏んで適切な情報モラルが身につくようにした。 ○ 教員の I C T 活用に関するスキルを高めることができた。 ○ プログラミングの研修を行ってきたことで、各学年で I C T 支援員と連携し、計画的にプログラミング学習を行うことができた。	達成度 A
次年度への課題	○ 児童や教師が身につけた I C T 活用スキルをさらに有効に活用するために、日々の授業実践と校内の研究授業・互見授業を行い、児童の主体的・対話的で、深い学びの実現を目指していく。また、I C T と非 I C T とのベストミックスについては、今後も検証を深めていく。 ○ 西山小学校と連携して、高学年を中心に I C T を活用したオンライン交流や合同授業を実施する。 ○ プログラミング教育の全体計画をもとに、各学年での教科・単元での実践記録を累積する。 ○ 情報モラルについての授業や講演を計画的に進めていく。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[生きる力を育む学校教育の充実]

(学校名 柳津小学校)

基 本 事 業	7 英語教育・国際理解教育の充実	
取組の状況	(1) 英語教育の推進 ○ 担任とALTの連携による効果的な授業実践 ○ ICTを活用した実践的な英語授業 ○ 定期的な自己の振り返り (2) 外国語指導助手招致事業 ○ ALTと連携した外国語・外国語活動の授業充実 ○ 外国の文化、生活に触れる体験活動の実施	
成果と評価	○ ALTとのTT授業を行うことで、発音やイントネーションなど、生の音声英語に触れながら、英語でコミュニケーションを図る楽しさを味わうことができた。 ○ ICT機器を有効に利用し、自分の発音を録音・再生することでより良い発音への意識を高めることができた。 ○ ALTの外国での生活様式や学校生活などを知ることにより、他国の文化を理解する良い機会となった。また、教科横断的な学習により、日本文化を再認識することもできた。	達成度 B
次年度への課題	○ 外国語と外国語活動の指導内容や方法について、英語指導助手と担任で連絡を密に取り合い、児童への指導効果がさらに上がるようにする。 ○ ICT機器を使った学習を継続するとともに、より効果的な学習方法を考え実践する。また、アルファベットに親しむ活動の充実を図る。 ○ 担任も積極的に英語を話すスキルを身につけられるよう研修を推進する。 ○ 中学校英語を見据えた「聞く・話す」に加えて「書く」活動を学年の実態に応じて取り入れていく。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基 本 事 業		1 確かな学力の向上（かしこい子どもに）		
取組の状況	(1) 「確かな学力向上グランドデザイン」による学習指導 ○ ふくしまの「授業スタンダード」、柳津町の「赤べこプラン」をもとに、本校の学力向上グランドデザインを作成し、共通実践を重ねてきた。とくに、児童が主体的に活動する時間と振り返りの時間の確保に重点を置き、授業改善に努めてきた。 ○ 家庭学習の充実とメディアコントロールを目指して、家庭学習の手引きを活用して家庭学習での約束事や家読の取り組み方、メディアコントロールの大切さについて、保護者と共通理解のもと、連携することができた。 (2) 柳津町学力向上推進事業（町教研への委託） ○ 町教研の研究主題を受け、指導主事を招いての指導案検討会・授業研究会を4度行うとともに、11月には町教研公開授業を国語科と算数科で行った。RSの視点とICT活用の両面から極少人数での関わりの持たせ方について参加者から多くの意見をいただき授業改善の意識を高めることができた。 ○ 火・木曜日の国算タイムを活用し、百ます計算に取り組ませ、集中力と計算力の向上を図った。 (3) 全国標準学力検査の実施 ○ 実施に向けて、夏季休業および冬季休業時に国語科・算数科の復習に力を入れて定着を図ってきた。また、個の学習状況を分析し、課題となる部分について教員間で情報を共有することで、年度をまたぐ指導へとつなげられるようにした。			
	成果と評価	○ 年間をとおして児童が主体的に活動する時間と振り返りの時間を確保することを重点化して取り組むことで、学習に対する主体性や言語活動の充実が見られた。特に、5・6年生でスクールタクトを活用した振り返りには児童の主体性が際立って見られた。 ○ 町教研公開授業研究会では、事後研究会において成果や課題など、校内だけではできない充実した話し合いをすることができた。 ○ NRTの結果については、全校の偏差値が国語科 57.6%、算数科 59.9%という結果になった。個の課題に応じた日々の授業の成果だと考えられる。 ○ アンダーアチーバー0名。		達成度
				A
次年度への課題	○ 国語科・算数科における個別の課題について定着を図るとともに、RSの視点に基づいた学習指導を継続していきたい。 ○ 現職教育として位置づけられた校内授業研修とともに、積極的に教員相互の互見授業を増やしていきたい。 ○ 3～6年生が各学年1名となることから、算数科などで自由進度学級を導入し、極少人数の強みをいかした授業改善を行っていく。 ○ 家庭と連携したメディアコントロール、家読の取組をとおして、家庭学習の充実を図る。			

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基 本 事 業	2 豊かな心の育成 (意欲をもってやり抜く子どもに)		
取組の状況	(1) 道徳教育、特別活動における指導 ○ 7月には道徳科の授業を全学級で保護者に公開し、保護者との共通理解を深めながら道徳教育を行った。 ○ 2～4年生合同の道徳科の授業は異なる立場からの異なる意見に触れることができ考えを広げることができた。 (2) 体験的活動、ボランティア活動の重視 ○ 健幸クラブとの交流をとおして、地域の方々との関わりを深めることができた。 ○ 西山地区の各所から太鼓を借用し、「ぶち合わせ太鼓」として発表することができた。健幸クラブの方に向けた西山小学校の体育館での発表や、地域の方に向けた各地区公民館での発表会を開催した。 (3) 学校図書の整備と読書活動の推進 ○ 図書館司書を中心に図書室の読書環境の充実に努めてきた。やないづ学校運営協議会でも話題になったが、児童が本を手にとりやすい工夫や、時節に合わせたコーナー作成、児童主体のポップづくりなど年間をとおして取り組んだ。 (4) いじめ、問題行動の早期発見、早期対応 ○ 定期的な教育相談だけでなく、日頃から児童とのコミュニケーションを密にすることで、いじめの未然防止や早期発見に努めた。		
成果と評価	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="284 1189 1326 1621"> ○ 学んだ道徳的価値について、特別活動や他の教科においても関連させながら、よりよく生きるための基盤づくりを進めることができた。 ○ 地域コーディネーターを活用したことで、多くの方が足を運んでくれた。学校と地域のつながりをつくる1つのイベントとなった。児童も地域に貢献できる喜び、所属感・達成感をもつことができた。 ○ 学校では様々な本を手にする機会は増えている。 ○ 問題発見時には職員間の情報共有、保護者への連絡、教育委員会への報告など組織的に対応できた。 ○ いじめの積極的認知を行う中でも、認知件数は0件となった。 </td><td data-bbox="1326 1189 1449 1621"> 達成度 A </td></tr> </table>	○ 学んだ道徳的価値について、特別活動や他の教科においても関連させながら、よりよく生きるための基盤づくりを進めることができた。 ○ 地域コーディネーターを活用したことで、多くの方が足を運んでくれた。学校と地域のつながりをつくる1つのイベントとなった。児童も地域に貢献できる喜び、所属感・達成感をもつことができた。 ○ 学校では様々な本を手にする機会は増えている。 ○ 問題発見時には職員間の情報共有、保護者への連絡、教育委員会への報告など組織的に対応できた。 ○ いじめの積極的認知を行う中でも、認知件数は0件となった。	達成度 A
○ 学んだ道徳的価値について、特別活動や他の教科においても関連させながら、よりよく生きるための基盤づくりを進めることができた。 ○ 地域コーディネーターを活用したことで、多くの方が足を運んでくれた。学校と地域のつながりをつくる1つのイベントとなった。児童も地域に貢献できる喜び、所属感・達成感をもつことができた。 ○ 学校では様々な本を手にする機会は増えている。 ○ 問題発見時には職員間の情報共有、保護者への連絡、教育委員会への報告など組織的に対応できた。 ○ いじめの積極的認知を行う中でも、認知件数は0件となった。	達成度 A		
次年度への課題	○ 児童が少ないため、兄弟姉妹間でのトラブルとなってしまう。他者との折り合いのつけ方などの社会性を学ばせるため、多様な人材との交流の場を増やしていきたい。 ○ 太鼓の演奏・鼓笛の演奏は児童数減のためこれまでと同様の活動は難しいが、地域での活動も含め、全校児童の発達段階や技能に応じて、可能な範囲で活動を取り入れていく。 ○ 学校においては、読書を楽しむ習慣ができているので、家庭でも読書できるように保護者を巻き込んだ読書の推進を図っていきたい。 ○ 保護者の意向を踏まえて、図書の購入を行う。		

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基 本 事 業	3 健やかな身体の育成 (たくましい子どもに)	
取組の状況	(1) 学校保健体育、部活動の指導 ○ 体育科の授業においては、主運動の前に運動身体づくりプログラムを確実に実施し、基礎体力の向上に努めてきた。また少人数でゲーム (ボール運動) が困難な場合には、複数学級で授業を行う等の工夫をしてきた。 ○ 水泳の学習では、6月・7月に特別非常勤講師としてスイミングスクールのコーチを招へいし、水泳の技能に応じた基礎的な練習の仕方を学んだ。 (2) 食育計画の作成と指導 ○ 毎日、全校生が食堂で給食を食べるので、食事のマナーや配膳の仕方を身につけられるように指導してきた。献立に関する情報についても毎回紹介することで、食文化に触れることができるようにしている。フードロス削減に向けて、食べ残しゼロを目指して取り組んだ。 ○ 肥満傾向の児童2名には、保護者の協力を得ながら「すこやか教室」を実施した。 (3) 全国体力テストの実施 ○ 前年度に実施した新体力テストの結果をもとに「体力向上推進計画書」を作成し、体育の授業だけでなく業間体育 (杉っ子タイム) の10分間で体力向上に努めてきた。	
成果と評価	○ 体育科の授業において、運動身体づくりプログラムの実施と主運動の運動量の確保ができており、児童が運動する楽しさを感じながら学習することができた。 ○ 食育として給食を食べる際に、よく噛んで食べることの指導や好き嫌いをしないで食べることができるように指導してきた結果、残食が減っている。 ○ 肥満傾向の児童2名のうち1名は標準に戻り、もう1名も改善傾向にある ○ 業間運動 (杉っ子タイム) を継続してきたことで、体力の高まりを実感させることができた。新体力テストの結果 (全児童 A または B) を自分手帳に記録し、個人の課題や目標について振り返ることができた。	達成度 B
次年度への課題	○ 極少人数のため、体育の時間にゲーム (ボール運動) が実施しにくい。複数学級で実施することで解消してきたが、それでもチームスポーツの実施は難しい。人数が少ない利点を生かし、個々の実態に応じた内容や運動を取り入れて運動に親しみながら体力向上に努めたい。 ○ 業間体育だけでなく、昼休みや放課後など自由に遊ぶ楽しさを感じさせたり、運動する習慣を身につけさせたりできるように、休み時間や放課後にゆとりを持たせたい。 ○ 他校の同学年の児童との競争意識を促すため、県事業のなわとびコンテストに参加したい。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基 本 事 業	4 特別支援教育の充実	
取組の状況	(1) 教育支援委員会の開催 ○ 町の教育支援委員会へ1件情報提供をした。 学習面では文字の読み書きに難はあるが、1年間の学習を通して読み書きできる字が増えてきた。アニメのキャラクターの名前を用いた支援など効果があった。 合理的配慮の周知を行い、家庭と連携し、児童のできることを増やしてきた。 (2) 特別支援学級の整備 ○ 特別支援学級の設置なし。	
成果と評価	○ 支援が必要な児童に対して、教育相談や保護者との面談から寄せられた情報と、医療機関を受診した際の診断結果から個の特性を理解し、合理的配慮を提供することができた。 ○ 本校は極少人数のため、手厚い支援を講じることができるため、意欲をもって学習に臨むことができている。 ○ 学習面では文字の読み書きに難はあるが、1年間の学習を通して読み書きできる字が増えてきた。アニメのキャラクターの名前を用いた支援など効果があった。	達成度 B
次年度への課題	○ 支援の必要な児童に対して、関係機関と情報を共有したり指導を仰いだりしながら学習内容を定着させるための支援の手立てを増やしていく。 ○ 3年生児童については、社会科や理科の教科書など、読むのが困難な場面が想定される。個別の支援・指導計画の見直しを行い、必要な支援・適切な指導を行っていきたい。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基 本 事 業	5 小・中（小・小）連携教育の推進	
取組の状況	(1) 小・中学校間連携教育の推進 ○ 町教研連携部会を中心に中学 1 年生が西山小を訪問し、体育館での交流会を行った。中学生が西山小の児童が喜ぶように企画を考えて楽しませてくれた。荒天のため、ロードフラワーの花壇の苗植えは実施できなかった。 ○ 中学校体験入学に参加し、中学校の授業の様子を参観し、中学進学への期待を高め、不安を解消できるようにした。 ○ 校内駅伝大会へ中学生が伴走者として参加してくれたことで、小学生の良い目標・憧れとなった。 (2) 小・小学校間連携教育の推進 ○ 合同修学旅行、合同宿泊学習をとおして、5・6 年が各班に分かれ、班別研修の計画を立てることや、自然の家のプログラムで協力して活動した。 ○ 5・6 年生が町の水泳記録会、陸上記録会に参加し、競技を通じて交流を図った。 ○ 2～4 年生は 1 学期に西山小での交流学习、2 学期に柳津小での交流学习を行った。 ○ 朝交流として、5・6 年生が Zoom を使って交流してきた。	
成果と評価	○ 中学校との連携では、中学生が西山小の児童のために企画した交流会は児童にとって新鮮で楽しいものになった。 ○ 柳津小との交流では、年に 2 回の交流を定期的に、継続して行ってきたことで、互いに知る仲になりつつある。5 年生から集団宿泊的行事で 2 日間一緒に活動することで、中学校で一緒に学ぶ仲間という意識が高まった。 ○ 西山での環境整備作業に中学校の先生も参加していただき、町内の小中学校合同の活動という意識が高まった。	達成度 B
次年度への課題	○ 小・中連携では中学校への接続という目的があるが、柳津小学校の人数の中に西山小学校の児童 1 名が溶け込むのは時間がかかると思われる。活動の内容を工夫し、心の面での交流ができるようにしたい。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[生きる力を育む学校教育の充実]

(学校名 西山小学校)

基 本 事 業		6 情報教育の充実
取組 の 状 況	(1) 学校教育用パソコン等 I C T 整備事業 ○ 全ての教科でタブレット端末を活用しており、その用途も資料集めや発表資料、職員と児童の資料共有、オンライン学習、データ保存など様々な場面で使用してきた。 ○ 自分の考えを可視化し共有することで話し合いにつなげてきた。 ○ 家庭学習においても、学習の記録の累積や提出課題の確認、欠席時の必要な資料の配付にも役立てた。 (2) 情報モラル教育の推進 ○ 懇談会では SNS との関わり方やゲーム内のチャットについて保護者に注意を呼び掛けた。 ○ ふくしま情報モラル診断を児童・保護者に実施してもらい、意識を高めるきっかけとした。	
	○ I C T 支援員のサポートにより教職員の I C T に関するスキルは年々高まってきた。 ○ ロイロノートを普段使いすることで、抵抗なく授業の中で活用する場面が増えている。 ○ メディアコントロールの必要性やフィルタリング、SNS トラブルについても注意喚起することができた。	達成度 A
次 年 度 へ の 課 題	○ タブレット端末の活用を積極的に進めていくが、文字や文章を書く機会が減ること、漢字を読む・正しく書くなどの定着が乏しくならないように意識して授業を行いたい。 ○ 情報モラルは継続的に児童や保護者に働きかけていく必要がある。懇談会や個別面談等で、個に応じた支援していく必要がある。 ○ 学習用タブレットの家庭での使い方について、定期的に確認・指導する必要がある。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基 本 事 業	7 英語教育・国際理解教育の充実	
取組の状況	(1) 英語教育の推進 ○ 5・6年生の外国語科では、少人数だからこそできる発音練習の反復や文字の書き取りなどを個別に指導してきた。3・4年生の外国語活動では、基本的な会話の練習だけでなく、外国の文化にも親しみながら学習してきた。2年生については、配当時数はないが、毎月1時間程度外国語に触れる時間を設定し、簡単なあいさつや外国の文化に触れる機会とした。 ○ 人数が少ないため、同じ相手との反復練習にならないように、学習したことを英語で職員に紹介したり質問したりする活動を取り入れた。(職員室での英語での質問タイム) (2) 外国語指導助手招致事業 ○ 昨年度末から引き続きオサマ先生に毎時間助手として支援をもらいながら授業を進めてきた。外国語によるコミュニケーション能力を高めるために、発音や英語での会話を繰り返し練習してきた。	
成果と評価	○ 児童の習得できた英単語が増え、会話のやり取りも技能が高まっている。外国の文化に触れながら、英語の歌や会話の仕方を身につけ、繰り返してきたため、意欲も高い。 ○ ALTは、外国語だけでなく日本の言葉や文化にも理解があるため児童への支援も分かりやすい。	達成度 B
次年度への課題	○ 多様なコミュニケーションの場の設定の工夫が必要であることから、第3・4学年合同で外国語活動を行うとともに、令和8年度から第5・6学年でも合同で外国語科の授業ができるように、圧縮版(2学年の内容を1年で圧縮して学ぶ)を教育課程に取り入れていきたい。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[生きる力を育む学校教育の充実]

(学校名 会津柳津学園中学校)

基 本 事 業		1 確かな学力の向上（かしこい子どもに）																								
取組 の 状 況	(1) 「確かな学力向上グランドデザイン」による学習指導 ○ 研究主題「主体的・協働的な学びを通して、将来について考えることができる生徒の育成 ～生徒が『自分で選ぶ、自分で決める、自分で進める』学びを生かした授業づくり～」に基づく学力向上に向けた取組 ○ 家庭学習の充実 (2) 柳津町学力向上推進事業（町教研への委託） ○ 全体研修会や学力向上研修会の実施、研究授業・事後研究会への参加 (3) 全国標準学力検査の実施 ○ 全国標準学力検査の結果分析と課題の共有、各教科での補充指導や朝学習の取組																									
	成果と評価	○ 「赤べこプラン」や『学びの変革』授業デザイン」を活用して校内研修を進めた。個別最適な学びと協働的な学びをより一層充実させるためには、様々な考えを引き出したり、共有させたりするために、教師の「みる」「きく」「つなぐ」といったコーディネートが必要である、という意識を高めることができた。 ○ 学習課題・学習方法などを生徒が主体的に選択することで、自らの学びを進めることへの意欲が高まり、一人一人が自分の考えをしっかりと見つめてきた。 ○ 授業につながる課題の提示の工夫として、ワークシートなどから生徒の考えを取り上げたり、身近なものを利用したり、次につながる課題を提示したりしたことにより、生徒の学ぶ意欲や授業をしっかりと振り返ろうとする意欲の高まりがみられた。 ○ 教科への興味が高まり、各種検定受験者が増加した。 ○ 定期テスト前の部活動停止期間を5日間から一週間に伸ばしたり、放課後に学習会を実施したりするなどして学習時間を確保し、学習意欲や家庭学習の充実を図ることができた。 ○ 「よむYOMUワークシート」を国語の授業や朝学習で活用し、読解力の向上につなげた。 ○ 全国標準学力検査 偏差値平均 <table><tr><td></td><td>1 年</td><td>2 年</td><td>3 年</td></tr><tr><td>国 語</td><td>48.6</td><td>49.1</td><td>50.6</td></tr><tr><td>社 会</td><td>50.1</td><td>48.3</td><td>51.8</td></tr><tr><td>数 学</td><td>47.0</td><td>50.2</td><td>49.6</td></tr><tr><td>理 科</td><td>48.5</td><td>49.5</td><td>48.0</td></tr><tr><td>英 語</td><td>43.4</td><td>44.2</td><td>47.2</td></tr></table>		1 年	2 年	3 年	国 語	48.6	49.1	50.6	社 会	50.1	48.3	51.8	数 学	47.0	50.2	49.6	理 科	48.5	49.5	48.0	英 語	43.4	44.2	47.2
	1 年	2 年	3 年																							
国 語	48.6	49.1	50.6																							
社 会	50.1	48.3	51.8																							
数 学	47.0	50.2	49.6																							
理 科	48.5	49.5	48.0																							
英 語	43.4	44.2	47.2																							
次年度への課題	○ 教師が授業においてコーディネートすることについては、ベテランの教員に苦手意識がみられる。多様な年代間の互見授業を進めていく。 ○ 家庭学習の充実については、生徒の自己マネジメント力を高める必要がある。学習に関することのみならず、メディアコントロールも含めた生活全般についての指導を継続していく。 ○ 全てお膳立てされてしまうと思考停止に陥り、予測困難なことに対処する力が身につかないので、自分から情報等を取得しようとする仕掛けをしていく。																									

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[生きる力を育む学校教育の充実]

(学校名 会津柳津学園中学校)

基 本 事 業	2 豊かな心の育成 (意欲をもってやり抜く子どもに)	
取組の状況	(1) 道徳教育、特別活動における指導 ○ 道徳教育推進教師を中心とした道徳教育の推進 ○ 全校道徳やローテーション道徳の実施など指導方法の工夫 ○ 生徒会活動の充実 ○ 朝鑑賞による非認知能力の伸長 (2) 体験的活動、ボランティア活動の重視 ○ 修学旅行や校外学習の実施 ○ 地域ボランティア活動や小中連携によるボランティア活動の実施 ○ 地域の人材や施設を活用した教育活動の実施 (3) 学校図書の整備と読書活動の推進 ○ 朝の読書の実施 ○ 生徒会図書委員会による読書活動推進に向けた取組や図書室の環境整備の充実 ○ 国語科を中心としたビブリオバトルの実施 (4) いじめ、問題行動の早期発見、早期対応 ○ 生徒指導委員会を中心とした組織的な対応とスクールカウンセラーとの連携	
成果と評価	○ 道徳においては、本校の強みである少人数を生かした縦割り班による全校道徳を実施し、異年齢の多様な意見や考えに触れさせ、道徳教育の効果を高めることができた。 ○ 伝統郷土料理学習や縄文館訪問、ロードフラワーなどの地域連携により、学校全体で地域理解を深めることができた。 ○ 外部からのさまざまな出前授業の依頼が多くあり、多様な学びができた。 ○ 学校司書と図書委員による連携を図りながら、新しい図書の紹介や読書の呼びかけを行うことができた。また、学校司書と国語科との連携により、朝の集会や校内文化祭においてビブリオバトルを開催することができた。 ○ 生徒指導委員会をSCの勤務曜日である木曜日に開催し、情報交換や対策についての協議を行った。それをもとに、個に応じた支援を行うことができた。	達成度
次年度への課題		B
	○ 朝鑑賞を月1回実施して、非認知能力を高めていく。 ○ 体験的な活動や探究的な学習を通して、自己肯定感を高めていく。 ○ 外部からの出前授業については、学校側が事前の煩雑な準備をすることなく授業を行ってもらえるよう依頼していく。 ○ 小中合同落ち葉掃き・ごみ拾いボランティア活動については、時期的に熊出没の危険がある。検討の余地がある。 ○ RSTの実施や読書、よむYOMUへの取組を充実させるなど、教育活動全体を通して読解力向上に努める。 ○ スクールカウンセラーによる全校生の面談を継続していく。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[生きる力を育む学校教育の充実]

(学校名 会津柳津学園中学校)

基 本 事 業	3 健やかな身体の育成 (たくましい子どもに)	
取組の状況	(1) 学校保健体育、部活動の指導 ○ 保健体育の授業や部活動への積極的な参加と運動に対する意欲や技能の向上 ○ 健康や安全への関心の向上と自己管理 ○ 平日の部活動指導の負担解消のための工夫 ○ 地域部活動へのスムーズな移行 (2) 食育計画の作成と指導 ○ 「自分で作るお弁当の日」の実践による食理解の推進 ○ 「朝食について見直そう週間」運動の推進 ○ 「ふくしまっ子食育指針 (福島県食育推進計画)」 「給食だより (給食センター)」 「自分手帳」を活用しての食育・健康指導 (3) 全国体力テストの実施 ○ 新体力テストの結果分析・課題の共有	
成果と評価	○ 特設陸上部への全校生徒参加により、目的・体力別に練習コースを設定して個に応じた総合的な体力向上を図ることができた。 ○ 平日の部活動指導の負担軽減として、主顧問と副顧問が日々交互に指導にあたり、校務を進める時間を確保するように促した。同時に、生徒の自主性や責任感を育成する機会を充実させた。 ○ 新体力テストのA段階は、2年女子4名、3年女子4名であった。結果分析から課題を共有し、保健体育の授業や部活動での指導に生かすことができた。 ○ 地域部活動では、教員の負担軽減とともに、地域のさまざまな指導者からの指導により、一層充実した部活動とすることができた。 ○ 7月と11月に「朝食について見直そう週間運動」を実施し、自分手帳に記録させ、食習慣や生活習慣の改善に努めた。 ○ フッ化物洗口を実施し、虫歯有病者率や一人平均虫歯数の低減に努めた。 ○ 薬物乱用防止教室や性教育講座を実施し、正しい知識の習得や健全な心と身体の育成に努めた。	達成度
		B
次年度への課題	○ 特設陸上部への全員参加と、個に応じた練習コースの選択、総合的な体力向上及び肥満解消については継続していきたい。 ○ 部活動指導と校務推進時間の確保は、働き方改革の視点からもさらに進めていきたい。 ○ 部活動の地域移行と同時に、クラブチームやスポーツ少年団等の外部団体に所属を希望する生徒が今後も増加すると思われる。学校としての部活動の在り方や生徒への指導等、過渡期ならではの問題発生とその対処が課題である。 ○ 歯の健康については、フッ化物洗口のほか、家庭や学校での歯磨きの実施も重要である。 ○ 薬物乱用防止教室や性教育講座は継続していきたい。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基 本 事 業	4 特別支援教育の充実	
取組の状況	(1) 教育支援委員会の開催 ○ 本校からは、特別支援学級の4名、普通学級から4名の計8名について情報提供を行った。 ○ 普通学級の生徒については、知的発達症1名、診断名はないが不安を抱え欠席がちな生徒1名、学習面において理解や定着に問題を抱えている生徒2名を挙げた。 ○ 生徒指導委員会において、スクールカウンセラーの生徒面談を踏まえた見立てとアドバイスをもとに、保護者との面談を実施したり、生徒の継続的な面談を実施したりした。 (2) 特別支援学級の整備 ○ 通常学級の教室同様の設備を確保した学習環境の整備 ○ 担任や教科担当教師、教育支援員を中心としたきめ細かな指導 ○ 本人の学力に応じた学習課題の設定	
成果と評価	○ 校内支援委員会を中心に、1年生1名、2年生2名、3年生1名について全職員で共通理解をし、指導の一貫性を図ることができた。また、職員間でこまめに情報交換を行い、指導についてその都度確認を行った。 ○ 通常学級の生徒についても、特別支援コーディネーター教員とスクールカウンセラーの連携、生徒指導委員会での情報共有や支援策の検討を行うことで、生徒の特性を理解し、保護者との話し合いを通して多方面から支援することができた。 ○ 個に応じた指導を行うことにより、学習意欲が高まった。 ○ 自立活動や普段の学校生活、部活動において、基本的生活習慣を身につけることができる場面を多く設定することができた。	達成度 B
次年度への課題	○ 時間割設定を工夫する必要がある。 ○ 今後も、生徒の特性を早急に拾い上げ、それに応じてできる限り柔軟に対応することが重要である。そのためには、保育所や小学校段階からのアセスメントが必須であり、それを町の支援委員会で推進し各学校と連携していくことで、児童生徒の生きづらさの解消や学力向上につながると考える。 ○ いずれの生徒も普通高校への進学を希望しているので、各生徒の実態に応じて基礎基本を確実に身につけさせる指導方法の工夫が必要である。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基 本 事 業	5 小・中 (小・小) 連携教育の推進	
取組 の 状 況	(1) 小・中学校間連携教育の推進 ○ 現職教育や町教研授業研究部を中心とする研究授業や授業の参観及び意見交換、研究協議 ○ 西山小との交流学习の実施 ○ 西山小とのロードフラワー運動の展開 ○ 柳津小との合同避難訓練や落ち葉掃き・ごみ拾いボランティア、除草ボランティアの実施 ○ 柳津小・西山小への各種検定試験の紹介と実施 ○ 小学校6年生が中学校を訪問しての授業見学と部活動見学の実施	
成 果 と 評 価	○ 年間を通じて各小学校と交流や連携ができたことで、児童生徒の実態把握ができ、9年間を見通してどのような指導や支援が必要かを考える良い機会となっている。 ○ 長年続いている交流事業でも内容を工夫することで、小中の連携を強めることにつながっている。 ○ 6年生の中学校訪問による授業見学と部活動見学を実施し、中学校の様子を実感していただいた。	達成度 B
次 年 度 へ の 課 題	○ 連携を充実させるためには、事前打合せや両校それぞれの準備など計画的に進めることが必要であるが、町教研連携部会所属の教員を中心にできるだけ負担のない方法で、且つ、高い教育的効果が得られるようにすべきである。また、近年の気候変動による災害級の酷暑や熊の出没など、命に関わる事案も発生しているので、落ち葉掃きや除草ボランティアなど、実施時期や内容、回数などについて検討する必要がある。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[生きる力を育む学校教育の充実]

(学校名 会津柳津学園中学校)

基 本 事 業	6 情報教育の充実	
取組の状況	(1) 学校教育用パソコン等 I C T 整備事業 ○ 各授業での I C T 機器の効果的な活用方法の検討 ○ I C T 支援員による研修や相談の機会の設定 ○ リモート配信による授業の実践 ○ 集会活動や行事等での I C T 機器の積極的な活用 (2) 情報モラル教育の推進 ○ 全校集会や各学年の学級活動など活用した日頃からの指導 ○ 通知や通達、他校での事例をもとにした生徒指導委員会での協議 ○ やないづ学校運営協議会におけるメディアコントロールについての協議	
成果と評価	○ I C T 機器を各授業で効果的に活用することができた。 ○ デジタル教科書や動画コンテンツなどの活用により、より分かりやすい授業を展開することができた。 ○ スクールタクトの活用により、生徒たちの考えを即座に共有させ、他の生徒と協働して学習する授業を展開することができた。 ○ 学びポケットにある学習支援コンテンツを活用して、個に応じた学習支援を行うことができた。 ○ 別室登校の生徒に対して、授業や各行事をリモート配信するなど、効果的に活用できた。 ○ グーグルフォームとタブレットを活用してのアンケート調査は、集計や分析において時間短縮につながった。 ○ S N S 等の使用に関して、機会あるごとに、情報教育担当や生徒指導主事、各学級担任による指導を行い、トラブルの未然防止に努めた。 ○ やないづ学校運営協議会においてメディアコントロールについて協議し、家庭での監督指導が基本であることを確認することができた。	達成度 B
次年度への課題	○ メディアコントロールについての家庭への啓蒙を継続していく。学校においても、機会を捉えて十分に指導していくことを継続していく。 ○ 全世代の教員が I C T 機器やデジタル教科書等を活用できるよう、特に若手教員の研究授業および事後研究会を充実させ、効果的な活用方法を身につける機会とする。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[生きる力を育む学校教育の充実]

(学校名 会津柳津学園中学校)

基 本 事 業	7 英語教育・国際理解教育の充実	
取組の状況	(1) 英語教育の推進 ○ 英語による授業の実施 ○ ALTやデジタル教科書の音声資料を活用したネイティブによる英語の聞き取り ○ 年3回の英語検定の実施 ○ 公民館事業への協力 (2) 外国語指導助手招致事業 ○ 授業、英語弁論大会に向けた指導 ○ ALTの発想を生かした授業の構築 ○ パフォーマンステストやインタビューテストの指導と評価	
成果と評価	○ ALTと連携して授業を展開し、コミュニケーションを中心に英語を活用する機会を多く設定することで、英語への興味関心を高めることができた。 ○ 英語への興味関心が高まり、多くの生徒が英語検定に挑戦した。 ○ ALTや教師が作成した掲示物により、外国の文化等を身近に感じたり、単語や英会話を一目で確認したりできる環境整備を行うことができた。 ○ 公民館事業であるブリティッシュヒルズ訪問や海外派遣事業に意欲的に参加する生徒が多かった。	達成度 B
次年度への課題	○ 英語検定を受検する生徒が増えたので、合格者をさらに増やすための指導を充実させたい。 ○ ALTの指導を最大限に活用するため、パフォーマンステスト等を効果的に行っていくたい。 ○ 公民館事業については、事前準備等、公民館主体で計画的に行っていただきたい。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

基本事業	8 教育環境・条件の整備充実		
取組状況	(1)教材教具整備事業 ○ 各種教材等更新整備、学校図書購入(柳津小132冊、西山小136冊、柳学中90冊)、 ○ ICT機器購入(会津柳津学園中学校…ICT機器管理運用PC1台、特別支援学級(情緒)用PC1台) ○ ICT支援員の配置…各学校週1回 (2)就学援助事業 ○ 準要保護就学援助 0名 ○ 特別支援教育就学援助 6名(柳津小2名、柳学中4名) (3)児童生徒通学費補助事業 ○ 遠距離通学児童生徒の保護者を対象にバス定期券購入費補助 28名 (柳津小12名、柳学中16名) (4)高校生奨学金貸与事業…貸付実績なし (5)教職員福利厚生事業…生活習慣病検診、人間ドック受診 (6)教員住宅管理事業…上村2戸入居/2戸、長坂1戸入居/4戸 (7)スクールバス運行事業 ○ スクールバス運行委託 本庁地区5路線、支所地区3路線 ○ スクールバス専用線運行委託 支所管内～柳学中 2路線 (8)特別支援教育支援員の配置…柳津小3名、柳学中1名 (9)複式指導解消支援教員の配置…西山小1名 (10)学校施設等改修整備事業(主要のみ) ○ 柳津小…地下タンクFRPライニング工事、普通教室スチールロッカー設置工事、体育館暗幕修繕工事 ○ 西山小…防犯カメラ取替工事 ○ 会津柳津学園中学校…特別教室網戸設置工事、非常階段基礎修繕工事、防犯カメラ取替工事、空調機修繕工事 ○ 給食センター…給食運搬車等車庫設置工事(森林環境交付金事業) (11)各種検定料補助事業 延べ129名受験(小学生15名・中学生114名) ・英検85名、漢検32名、数検12名		
成果と評価	○ 特別な支援を要する児童生徒の個に応じた指導、また、複式学級での学年に応じた指導を充実できるよう教育支援員を配置した。 ○ 各事業において適正な予算執行及び契約工期に基づき完了することができた。 ○ 就学援助事業、児童生徒通学費補助事業、英語・漢字及び数学(算数)検定料補助事業による支援を実施した。特に、英語検定については、中学生のほぼ全員が受験し、積極的な姿勢が見られた。これらの取組みにより、子育て支援の充実と保護者の経済的負担の軽減を図った。 ○ 給食運搬車等車庫整備事業は、森林環境交付金の財源を確保し、給食運搬車のほか、スクールバス(専用線)2台、学校除雪機を格納し、車両の適正管理を図った。		達成度 B
次年度への課題	○ 各種検定料補助事業については、年々、受験者数は増加しているものの、合格を得るための学力の定着が必要である。 ○ 学校施設等長寿命化計画及び建築物定期検査等の結果に基づき、計画的に施設を改修するための、財源確保が必要である。 ○ ICT機器(タブレット等)について、財源を確保し計画的に更新する。 ○ 教員住宅について、空調機の設置やトイレなど、現代の標準的な仕様に改修する必要性がある。		

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[生涯学習の推進]

基 本 事 業	1 興味・関心を抱く学習機会の創出と町民同士の交流促進	
取組の状況	(1) シニアサークル「福寿学園」「養寿学園」の開催 ○月1回の開催・受講生：福寿学園8名、養寿学園14名 (2) 成人学級「悠友倶楽部」の開催 ○月1回の開催・会員数50名 (3) 料理教室の開催 ○月1回開催・受講生延べ20名 (4) その他の教室 ○町民企画講座 健康づくり講座他 参加者25名 ○伝統工芸教室 12月18日 参加者10名 (5) 地域文化財利活用事業 ○伝統食博覧会「ままんま博」3月7日 参加者83名 ○天然味噌づくり 1月17日 参加者35名 ○蕎麦打ち伝承 7月～11月 8回開催 参加者延べ30名 (内4回はうどん教室を実施)	
成果と評価	○古からの知恵を再評価するとともに、学びと継承を自然な形で講座として提供した。 ○限定的な予算の中で、地域人材と連携しながら多様な学習機会を確保した。	達成度 B
次年度への課題	○委託講座(料理)や交流イベント(ままんま博)を通じ多様な学習機会と住民のつながりを創出し、地域の学びの裾野拡大に貢献した。一方で、参加層の固定化や担い手不足など課題が残り、世代間交流や継続的運営体制の強化が今後の課題である。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[生涯学習の推進]

基 本 事 業	2 社会教育施設の設備等の充実	
取組の状況	(1) 活性化施設「ふれあい館」管理運営事業 ○地域住民の活動の拠点として、利用しやすい施設づくりに取り組んだ。 令和7年度は空調設備を全面的に改修し、利用者の過ごしやすい環境整備を行った。 開館時間 ・ 平日：午前8時30分～午後9時 ・ 土、日、祝日：午前8時30分～午後5時 講座、文化団体、学校・PTA、体育関係、役場の会議、趣味のサークル、トータルスポーツ、一般会議・研修等への貸出。 (2) 図書館整備事業 ○新たに雑誌コーナーを設け既存・新規利用者の開拓及び利便性の向上を図っている。 ・ 新規購入図書195冊 ・ 総数9,873冊 (3) 地区集会所施設の整備補助事業 ○町内1地区集会所の改修、修繕等の助成事業を実施し、地域コミュニティの拠点づくりと環境整備等に支援。 ・ 総事業費6,333,250円 補助金総額(80%)4,808,000円	
成果と評価	○生涯学習や社会教育の場として、サークル活動を中心に利用促進を図った。放課後の児童生徒の利用に際しては公共の場でのマナーを指導しつつ、誰もが利用できる憩いの場として提供している。 ○新刊図書を購入し充実に努めるとともに、定期的に図書の入替えを行った。 ○図書の貸出冊数は前年比で5%増となっている。	達成度 A
次年度への課題	○図書室の閲覧台の拡充や雑誌の導入により新たな利用者や貸出数の増加につながった。一方で、古い図書の保管場所が不足しており、新刊を導入しても整理が行き届かないなど課題が残る。快適で誰もが使いやすい施設づくりに向けた対応が求められる。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[生涯スポーツとレクリエーションの推進]

基 本 事 業	1 楽しさを感じるスポーツ事業の提供	
取組の状況	(1) 各種町民スポーツ大会等の開催 ○2025 みずウォーク 6月7日実施 ○霊まつり少年ソフトボール大会 8月30日開催(保護者主催・町後援) ○姉妹都市・出雲崎町スポーツ交流事業 9月27日 出雲崎町で開催 野球12名、ソフトバレーボール12名、職員3名 参加 ○やないづスポーツフェスタ 6月22日 のべ361名参加 脳活体操、つみコップ、ヨガ教室、ボッチャ体験会、お楽しみ抽選会等実施 新たな内容も加わり 参加者も昨年の倍増加 (2) 県総地域スポーツ大会への参加 両沼大会 バドミントン優勝、壮年ソフトボール準優勝、ソフトテニス準優勝 会津地域大会 バドミントン準優勝、壮年ソフトボール3位 (3) ふくしま駅伝競走大会への参加 第37回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会に出場 総合成績46位、町の部成績24位 前大会順位同等 (4) 市町村対抗軟式野球大会・ソフトボール大会への参加 野球:1回戦 飯館村に勝利、2回戦棚倉町に敗退 ソフトボール:1回戦 矢祭町に敗退 (5) 町スポーツ協会運営事業 12の加盟団体で構成し、スポーツの振興を通じて町民の健康増進と楽しさを感じるスポーツの提供を、各種競技団体で工夫し実施している。 (6) スポーツ推進委員会の開催と活動 月1回の定例会の開催と生涯スポーツの地域参加型教室の立案、両沼並びに県の研修会への参加、ふくしま駅伝事業サポート等(委員数13名)	
成果と評価	○昨年度に続き、スポーツ少年団を中心とした活動が活発化し、子どもや保護者世代への普及促進という面では目標通りの成果を上げ、地域に根ざしたスポーツ活動の基盤強化に貢献した。 ○地区対抗のスポーツ大会を見直し、誰もがスポーツを楽しめる「やないづスポーツフェスタ」を今年も開催。参加者数が前年度の2倍になり、参加者も順調に増加。 ○市町村対抗競技である駅伝、野球、ソフトボールは、昨年に引き続き町単独で出場することができた。	達成度 B
次年度への課題	○高齢化や人口減少、コロナ禍以降の影響により、今後も地区主体での参加は難しい。スポーツは競技中心から健康づくりや楽しむスポーツへと変化し、団体競技から、ヨガやピラティスなど個々で取り組む内容へと多様化している。 こうした変化を踏まえ、「競技者のため」から「地域みんなのため」への一層の多様な機会の創出を通して参加促進と地域活性化につなげていく。 ○「やないづスポーツフェスタ」は4年目を迎え、定着が見られる。今後は、行政(公民館)からスポーツ推進委員主体の運営へ移行し、関係団体と連携しながら町全体での事業展開を図っていく必要がある。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[生涯スポーツとレクリエーションの推進]

基 本 事 業	2 スポーツ施設及び設備の整備充実	
取組の状況	(1) 運動公園施設整備事業 ○「NPO法人赤べこトータルスポーツ」に管理委託して7年が経過し、民間主体による施設運営が順調に行われている。 ○B&G体育館（1979年、武道館は1980年に建設、現在47・46年目） 体育館は高天井照明器具LED球2台交換。 年間利用者数11,492人（町民10,166人、町外1,326人） 内訳：体育館10,133人（町民8,937人、町外1,196人） 武道館1,359人（町民1,229人、町外130人） ○海洋センタープール 年間利用者数1,610人（町民1,395人、町外215人） ○テニスコート 年間利用者数3,056人（町民2,019人、町外1,037人） ○グラウンド 年間利用者数3,969人（町民1,916人、町外2,053人）	
成果と評価	○スポーツ施設は、町の各種教室やスポ少、部活動、スポーツ合宿、大会等での利用が多い。地域住民の健康づくりや青少年の健全育成の場として活用されている。 ○運動公園施設は近隣市町村の利用も多く、建設から55年が経過しており、老朽化が著しく、施設の長寿命化に向けて計画的な修繕が必須となっている。	達成度 B
次年度への課題	○施設の修繕箇所が多くなっていることから、必要な修繕の予算措置が必要。 ○海洋センタープール(昭和56年建設)は、経年劣化が著しい。屋根及び屋根シートは更新等に向けて検討が必要。 ○グラウンド及びテニスコートの照明灯は、今後LED化に向けて計画的に予算措置していく必要がある。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[生涯スポーツとレクリエーションの推進]

基 本 事 業	3 指導者の確保とスポーツ団体への支援		
取組の状況	(1) 町スポーツ協会及びスポーツ推進委員会の活動支援 ○スポーツ協会 12団体 柳津町体育協会は昨年、「柳津町スポーツ協会」へ名称を変更し、従来の教育的・鍛錬的な位置づけから、時代に合わせた「楽しさ」を重視するスポーツ提供へと方針を転換、生涯スポーツの推進を図っている。 また、日本スポーツ協会（JSP0）の方針により指導者資格の重要性が高まっていることから、スポーツ少年団の指導者に対する資格取得の支援にも取り組み、さらに令和8年度より、指導者育成事業を新設し、指導者全員の資格取得に取り組み、指導者のさらなる資質向上を目指す。 ○スポーツ推進委員会 委員13名（男性11名、女性2名） スポーツ事業の計画・精査・各種スポーツ事業の運営を支援。「やないづスポーツフェスタ」の運営支援。ふくしま駅伝事業の試走・大会帯同等の支援 (2) 赤べこトータルスポーツの活動支援 クラブマネージャーが活動計画や運営に携わっている。活動場所として、運動公園施設、ふれあい館を無償で提供している。		
成果と評価	○赤べこトータルスポーツは、部活動の地域移行を背景に地域全体でスポーツを支える体制づくりが進んでおり、住民の体力向上や青少年の健全育成にも貢献している。 ○土曜日の部活動は既に地域移行が図られており、今後の一層の進展が期待される。		達成度 C
次年度への課題	○赤べこトータルスポーツにおいては、活動内容のさらなる充実と新たな展開が求められるとともに、運営体制の安定化が課題となっている。 ○現在の地域クラブマネージャーは、未経験者のため、研修や資格取得等、資質向上を目指す必要がある。 ○スポーツ推進委員の活動については、近年のスポーツイベント見直しに伴い、活躍の機会が減少しているのが現状。次年度は、町のスポーツの方向性を踏まえ、主体的に考え行動する中核的な存在としての役割を担えるよう、活動の充実を図っていく必要がある。 ○各団体・行政がそれぞれ個別に活動しているため、全体像が把握しにくい状況にある。今後は、生涯スポーツ・地域スポーツの推進に向け、早急な連携強化が必要である。		

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[地域行事の継承、文化財の保存・活用と芸術文化の振興]

基 本 事 業	1 文化財の適切な保存・管理	
取組 の 状 況	(1) 町指定文化財管理事業 ○国・県・町指定文化財 21 件 (国 2 件、県 3 件、町 16 件) ○令和 7 年度は新たな指定はなかったが、引き続き適切な維持・管理を行った。 (2) 縄文館活用事業 ○石生前遺跡出土資料の再整理が終了し、これまでの整理・調査にて得られた新たな知見や魅力を発信するために、やないづ縄文館のホームページを開設した。また、柳津町史別冊版として『柳津の縄文時代』を発行し、町民向けに町の縄文時代を理解しやすい内容で発信を行った。 (3) 柳津町文化財保存活用地域計画策定事業 ○町固有の歴史・文化の継承とこれらを活用したまちづくりを推進するためのマスター・アクションプランとなる柳津町文化財保存活用地域計画の策定に着手した。令和 7 年度は計画内に記載する未指定を含めた文化財の基礎的な把握調査を実施した。また、町内外の関係者・有識者による策定検討会を開催した。 (4) 地域・日本の新たなレガシー形成事業 ○前年度よりの継続事業として、前年度検討・議論した事項に基づいて圓藏寺庫裡の活用に向けた伝統食体験プログラムの実証実験を実施。また、歴史的景観を活用したまちづくりの先進事例の視察等も実施した。 ※観光庁採択事業 (5) 文化財火災防御訓練の実施 ○奥之院弁天堂、圓藏寺周辺での防御訓練 柳津町消防団・圓藏寺自衛消防隊合同防災訓練と同時開催	
成果 と 評 価	○伝統食博覧会「ままんま博」を継続して開催し、地域文化財の価値評価と内外に向けた地域の文化的な価値の継承と発信により、シビックプライドの醸成や文化観光に向けた発展的な取り組みを実施できた。	達 成 度
	○柳津町文化財保存活用地域計画策定に着手し、圓藏寺を中心とする未指定を含めた文化財の基礎的な把握調査を行ったことで、これまで把握されていなかった美術工芸、歴史的建造物の再発見・評価に繋がった。 ○圓藏寺庫裡を中心に、伝統食の体験プログラムやユニークベニューのような活用に関する実証実験を行い、町固有の文化を活用する機運が高まった。	A
次 年 度 へ の 課 題	○地域文化財の担い手の育成や無形文化財登録に向けた機運が高まっており、利活用に向けた組織づくりや人づくりが求められる。将来的な文化観光も視野に入れた持続可能な地域づくりや、ゆるやかな地域経済の循環形成に引き続き努めていく。 ○住民参加型のイベントを通じて、地域の歴史文化を学ぶ機会を創出するとともに、地域内外への情報発信力の強化や、地域の誇りや愛着を育むシビックプライドの醸成も必要。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[地域行事の継承、文化財の保存・活用と芸術文化の振興]

基 本 事 業	2 有識者、関係機関との連携	
取組の状況	(1) 柳津町文化財保護審議会の開催 ○文化財保護審議会の開催 ○現地研修 富山県南砺市(井波地区の歴史的景観を活用したまちづくり視察) 1月28日～29日 (2) 有識者や関係機関との協力 ○柳津町文化財保存活用地域計画策定や伝統食文化の継承と活用において、福島県立博物館や大学等の学識経験者の協力を得ながら実施した。また、継続して柳津町文化財専門アドバイザーを委嘱し、縄文館活用における専門的な指導と支援をいただいた。	
成果と評価	○文化財の地域観光への活用を積極的に進め、組織づくりや町内外問わず多くの人々が歴史や伝統文化等に触れられるよう専門性を持った地域人材を育成する素地が生まれている。 ○奥会津での保存食とその保存食を使った伝統食について、持続可能な仕掛けづくりとして専門家の指導や継承者の協力を得ながら伝統食の再現・調理法の勉強会を実施した。 ○柳津町文化財保存活用地域計画策定に向けた未指定を含めた文化財の基礎的な把握調査を実施したことにより、計画策定だけでなく、町の歴史・文化を把握し、活用するための基礎的なデータも得ることができた。	達成度
		A
次年度への課題	○大学や博物館等との連携による調査研究を深めるとともに、文化財保護審議会や有識者の指導を受けながら新たな地域資源(食文化、伝統行事等)の保存に努める。 ○担い手の育成や有形・無形問わず文化財指定・登録に向けた機運を高めていき、将来的な文化観光も視野に入れた持続可能な地域づくりや、ゆるやかな地域経済の循環形成のため、地元関係者の他、専門家を含めた組織作りが必要である。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

[地域行事の継承、文化財の保存・活用と芸術文化の振興]

基 本 事 業	3 やないづ町立斎藤清美術館の充実
取 組 の 状 況	(1) 斎藤清展事業 【入館者数 14,416 人】 ○企画展の実施(年3回開催) ・春季企画展【3,565 人】 「斎藤清 祈りの形象学(フォルモロジー)」 4.12～6.15 ・夏季企画展【3,344 人】 「斎藤清 水・百態」 6.21～8.31 ・特別企画展【5,614 人】 「コレクターズ episode2」 前期:9.13～10.26 後期:11.1～12.21 ・冬季企画展【1,893 人】 「斎藤清と写真」 1.6～3.29 (2) 県外斎藤清展推進事業 ○オリジナルグッズの館外販売(東京都美術館) (3) 滞在的アートプロジェクト事業、地域アートプロジェクト事業 ○地域住民が気軽に参加できるトークイベント・講演会・ワークショップ ・「館長講座」7月12日、9月27日、11月22日 ・「学芸員講座」6月28日、8月16日、10月11日 ○ミュージアムカフェ ・4～5月、9～11月の土日祝日 28日間 ○筑波大学、会津短期大学との連携イベント 【筑波大学】 ・開館30周年、筑波大学協定10周年記念展に向けた、エコロジーをテーマとした作品を制作、筑波大学での展示を実施。 【会津短大】 ・「ドライポイントに挑戦！」4月29日 ・「コウハンってなに?～彫らない版画、「孔版」に挑戦！」8月17日 ・「斎藤清の技法に挑戦～第1弾エンボス」9月28日 ・「ドライポイントで描く 柳津町」 11月24日 ○地域おこし協力隊事業 ・ワークショップの開催、公民館、小中学校との連携事業、地区活動の実施 ・おはなし鑑賞会 柳津・西山小学校全学年実施 (4) 作品等収集 ○栃木県矢板市、荒井誠司氏より斎藤清作品(木版画)他 96点寄贈 ○代表作品、デッサン、墨画など未収蔵作品等の情報収集 (5) 施設整備 ○キャッシュレス決済の導入

成 果 と 評 価	(1) 入館者数 14,416 人 (R6 年度 11,694 人、23.3%増) 年 4 回の企画展を実施した。9 月～12 月に 2 回に分けて実施した「Collection episode2」の特別企画展においては、令和 6 年度にご寄贈いただいた松島俊宏様の作品をご紹介します、多くの方に入館いただいた。入館者数についても昨年より 2,722 人増となり、1 日平均入館者数も増となった。 (2) 収入額 26,651 千円 (R6 年度 23,803 千円、12%増) 入館者数が昨年度より増加したことに伴い、入館料についても令和 6 年度よりも 970 千円の増、グッズ販売収入についても 1,878 千円の増となった。 入館者数の増によるグッズ販売額の増もあるが、キャッシュレス決済の導入により、顧客利便性の向上が図られ、多様な決済手段に対応可能となり、その結果、購買単価の向上が図られ、売り上げの向上にもつながった。 (3) 展示以外に企画展とあわせてカフェやワークショップを行った。 (4) 地域に根ざし、開かれた美術館を目指すため、町内小中学校や筑波大学、会津大学短期大学部、武蔵野美術大学との連携事業を行った。 (5) 専門的な知見を有した美術館長の適切な指導助言により、上記事業について取り組みが焦点化され、成果をあげることができた。	達成度 B
次 年 度 へ の 課 題	(1) 開館 30 周年、生誕 120 年の周年の年に向けた集客のためのプロモーション ○公式 HP の内容充実と公式 SNS である facebook、Instagram、YouTube での情報発信の強化・拡充 ○新たなファン獲得に向けた企画（渋谷ヒカリエでの展示） (2) 斎藤清アーカイブの継続的实施 ○作品の収蔵・研究・展示という美術館の基本サイクルの徹底 ○斎藤清を知る人からの情報収集 (3) 周年の年に向けて、斎藤清美術館を巡る様々な縁を改めて見つめ直し、町民の方々が気軽に訪れることができる環境づくりに取り組むとともに、美術館通信を継続的に発行し、美術館の企画・事業を広く周知していく。また事業を行う上で、美術館単独ではなく、町内小中学校や、関係各課、関係団体と連携していく必要がある。 (4) オンラインショップの充実 キャッシュレス利用意向が高まっていることから、「代引き」のみの支払い方法に、「カード決済等」による支払い方法を追加導入予定。 (5) 施設整備 アートテラスの整備及び周年に向けた環境整備（空調・照明関係）を実施。	

達成度 A～十分達成 B～ほぼ達成 C～やや不十分 D～不十分

Ⅳ 点検・評価に関する有識者の意見

有 識 者 名 簿

【敬称略】

No.	職 名	氏 名
1	柳津町人権擁護委員代表	鈴 木 晴 美
2	柳津町主任児童委員	荒 木 南 枝
3	柳津町主任児童委員	菊 地 由 枝
4	柳津町文化協会長	新 井 田 順 一
5	柳津町スポーツ協会長	齋 藤 幹 夫
6	やないづ学校運営協議会長	金 子 勝 之
7	柳津小学校PTA会長	齋 藤 盛 文
8	西山小学校PTA会長	山 内 諦 真
9	会津柳津学園中学校PTA会長	目 黒 照 枝

※令和7年度当時の当該役職者

IV 点検・評価に関する有識者の意見

1 点検・評価に関する有識者について

学識経験者の知見の活用については、本町の教育行政に関わりのある以下の方々を点検・評価に関する有識者として選任し、ご意見をいただきました。（敬称略）

なお、令和7年度当時に当該役職に就かれている方にご協力いただきました。

- ・ 鈴木 晴美 〈柳津町人権擁護委員代表〉
- ・ 荒木 南枝 〈柳津町主任児童委員〉
- ・ 菊地 由枝 〈柳津町主任児童委員〉
- ・ 新井田 順一 〈柳津町文化協会会長〉
- ・ 齋藤 幹夫 〈柳津町スポーツ協会会長〉
- ・ 金子 勝之 〈やないづ学校運営協議会会長〉
- ・ 齋藤 盛文 〈柳津小学校PTA会長〉
- ・ 山内 諦真 〈西山小学校PTA会長〉
- ・ 目黒 照枝 〈会津柳津学園中学校PTA会長〉

2 点検・評価に関する有識者の意見（順不同）

（1）教育委員会の活動状況について

- ・ 多岐に亘る協議を重ねられていることに改めて敬意を表します。協議内容を細部までは読み取れないのですが、各々の議題について真摯に向き合う姿勢が想像されます。
- ・ 町学校適正配置等検討委員会設置要綱の制定については、時間をかけ慎重に進めてほしい。3校ともに小規模校であり、地域の協力体制を早急に推し進めてほしい。
- ・ 子ども達の健やかな成長、町民の生涯学習の意欲向上等のために細やかな配慮がされている活動だと思います。地域に密着することは大切ですが、加えて世界にも目を向け、グローバルな活動もできれば良いのではと思います。
- ・ 子どものみならず大人も一生勉強の中で、教育委員会の存在は大きいです。すぐ表面化できること、なかなか表面化できないこともあるかと思いますが、これからも町民の為に尽力よろしく願いいたします。
- ・ 一年間を通して多くの活動ありがとうございます。少人数での活動には、一人一人の労力が大きくなりつつある傾向がありますが、今後も同様の場面が多くなってくるとは思いますので、負担の軽減につながるような状況づくりも必要になるのではないかと思います。
- ・ 毎月の定例会では、ボリュームのある内容を審議していただいて、大変良いと思います。また、活動も毎月、多岐にわたり学校行事を中心とした行事に参加していただき、良いと思います。今後ともよろしく願いいたします。

(2) 各重点施策の点検・評価について

【学校教育の充実】

- ・ 達成度において、ほぼ達成している事は良い事だと思います。出来るならば十分な結果を得られる方が良いとは思いますが、少人数ならではのところで、良い方向に向かえば良いとは思いますが。
- ・ 学校教育全体における評価ではBの評価が多い。柳津町の学校教育の突出した特徴や強みがあっても良いのかと思う。
- ・ 各学校において、目指すところは一緒で、その方向に向かって取り組み、進んでいるんだなと感じます。思い通りに進むこと、進まないことだったり、この状況ではというところも多いかと思いますが、それぞれできる事を目指すところが一緒の中で、取り組めて進んでいければ良いのではないのでしょうか。私も私のできる事をこれからも続けていきたいと思っています。
- ・ 人口減少、少子化に伴う児童生徒数の減少は、国及び地方の最大の課題です。町長部局・公民館との垣根を越えて知恵を出し合い、結婚・出産・子育てと、「子供は宝、未来への投資」を目標に、連携強化を図り対応してください。
- ・ 修学旅行の無償化は、なぜ出来ないのでしょうか、東京23区はほとんどが無償です。近隣では三島町・金山町が既に無償化です。子育て支援は町長部局の範疇ですが、上記に記載の少子化対策とは大いに関係があります。保護者の教育費の負担軽減は大切な少子化対策の一つです。小中合わせて40名程度一人10万円としても400万円、一般会計47億円の1%にも満たないのです。柳津っ子に投資は出来ないのでしょうか。就学援助制度に頼らず全員対等で実施できれば、子供たちも楽しいでしょうし、町のイメージアップになるのではないのでしょうか。
- ・ 副教材費の無償化についても、ご検討いただきたい。こういう取り組みをしている自治体や教育委員会を、移住希望者は注目しています。便利な都会を出てくるわけですから、より以上魅力ある子どもの教育・生涯教育は、大きな選択・決断材料だと思います。

① 確かな学力の向上（かしこい子どもに）

② 豊かな心の育成（意欲をもってやり抜く子どもに）

- ・ 小・中学校共にメディアコントロールの必要性やSNSトラブルについて取り組んでいるので、互いに情報交換して問題や注意点、改善策等を共有できると良いと思います。
- ・ 道徳は、人として最重要な纏いであることは疑いない。言動、他者との交わり等全てに亘り、一生ついて回るものであり、就学前から家庭・地域が再認識しなければなりませんね。児童生徒にも適切な教育を施して欲しい。また、丁寧な字を書くことを心掛け、習慣化することも、自分を大切にすることにつながり得ると思う。

- ・ 豊かな心を育むのは、自分にしっかりと向き合う姿勢が重要であり、その第一は日常の読書かと思う。競争しない読み方を指導すべきかと思う。本に親しむことの励みの一助になるなら、防災無線の活用はどうか。校内放送にて既に実施しているかもしれないが、読むことの緊張と励みの為に検討してほしい。

③ 健やかな身体の育成（たくましい子どもに）

- ・ 食育の取り組みについて、更なる推進をお願いします。

④ 特別支援教育の充実

⑤ 小・中（小・小）連携教育の推進

⑥ 情報教育の充実

- ・ ICT機器の導入は順調に進んでいますが、報道によると机が小さく本やパソコン、タブレットが落ちることがあるので、集中できない。または、機器の損傷につながるということです。当町が該当するようであれば対応をお願いします。

⑦ 英語教育・国際理解教育の充実

- ・ ブリティッシュヒルズや海外派遣事業には、外国語に対する聞く、話す、書くに加え、感動が付帯するものかと思う。その感動を会得する方法の一つに、ALTの活用を工夫する。他町村のALTに出席を頂いて、ALT同士で日常会話をしてもらうのはどうか。日常会話には当然、感情や感動が伴うものであるから。また、ALTは外国語で子ども達に接して欲しい。

⑧ 教育環境・条件の整備充実

- ・ 東京都滝野川第三小学校火災を教訓に、児童・生徒の命を守る危機管理体制を至急確認してください。避難訓練はあらゆる場所からの出火を想定し、防火扉のシステムを全員に周知してください。防犯について、不審者侵入監視カメラや防犯カメラを活用し、刺股で戦うことを想定し、消防・警察と緊密な連携をとって訓練してください。
- ・ 徒歩通学の児童生徒の安全のため、防犯カメラの設置をお願いします。これも教育委員会の範疇でないかもしれませんが、現在、旧国道252線は通学安全のため、数ヶ所設置してありますが、人通りや人家の無い道路を通学している子供たちがいます。教育委員会からも働き掛けをお願いします。

【生涯学習の推進】

① 興味・関心を抱く学習機会の創出と町民同士の交流促進

- ・ 「食べた記憶」の為、食文化ストーリー事業の一環として親子招待の機会を設定してはどうでしょう。

② 社会教育施設の設備等の充実

- ・ 令和7年度には空調施設の全面改修を行い、利用者の過ごしやすい環境整備を行ったようですので、町民の皆様のスポーツと文化の向上に、今以上に利用しやすい施設づくりに取り組んでください。また、児童生徒の活字離れや読書冊数が減少している昨今、図書館の充実は重要です。スマホやタブレットだけに頼らず、本を手にとって見たいと思う工夫をしてみてください。7年度は達成度A～十分達成されたようですが、8年度は更に期待します。

【生涯スポーツとレクリエーションの推進】

① 楽しさを感じるスポーツ事業の提供

② スポーツ施設及び設備の整備充実

③ 指導者の確保とスポーツ団体への支援

- ・ 令和7年度以前（数年前）から達成度C～やや不十分との評価です。次年度への課題が明確に示されているのに改善されていないのが残念です。令和8年度は4項目の課題を是非達成して頂きたい。「課題であるとか必要がある」ではなく、進めて頂きたい。団体やクラブ、個々に丸投げしないで、管理者が話し合いに参加し、良く話を聞き、指導助言や支援をする事は大切な事ではないでしょうか。

【地域行事の継承、文化財の保存・活用と芸術文化の振興】

① 文化財の適切な保存・管理

- ・ 銀山大煙突について、保存するのかもしれないのか、理解できない状況です。
- ・ お正月から年越しまでの自分家の伝統行事や、その日の料理やお供え・飾り物などを暦として残したいと思っていますが。
- ・ 柳津町誌追加版の作成発行について、昭和51年発刊以降、世の中は大きく変化している。町民はもちろん、他自治体、関係機関も関心を持っている。

② 有識者、関係機関との連携

③ やないづ町立斎藤清美術館の充実

- ・ 町内の入館者数、特に児童生徒、学生の活用に注目したい。
- ・ 斎藤清氏の名を冠した公募展を実現して欲しい。

《資 料》

令和7年度 柳津町教育委員会の点検・評価の概要

柳津町教育委員会は、要綱に基づき、令和7年度の教育委員会に属する事務の管理及び執行状況について、次のとおり点検・評価を行います。

(1) 点検・評価の対象(項目)

「柳津町教育委員会の活動状況」及び「柳津町教育委員会の重点施策」

① 柳津町教育委員会の活動状況

柳津町教育委員会の開催及び審議状況、教育委員の主な活動、教育委員会の情報発信等

② 柳津町教育委員会の重点施策

令和7年度柳津町教育委員会重点施策について、「取組の状況」「成果と評価」「次年度への課題」の視点から、それぞれ点検・評価を実施する。

※「達成度」については、重点施策ごとに、A(十分に達成)、B(ほぼ達成)、C(やや不十分)、D(不十分)の4段階で評定

(2) 学識経験者の知見の活用

小中学校PTAを含む教育関係者等、教育に関し知見を有する方から、柳津町教育委員会の内部評価について意見をいただく。

※学識経験者

- ・人権擁護委員代表・主任児童委員・文化協会長・スポーツ協会長
- ・学校運営協議会長・小中学校PTA会長

(3) 点検・評価の経緯

柳津町教育委員会では、次の手順で点検・評価を実施する

① 各学校での内部評価 (3月～4月)

○重点施策「学校教育の充実」

② 教育委員会の内部評価 (4月～5月)

○教育委員会の活動状況のまとめと評価(学校教育係)

○事務事業の取組(進捗)状況のまとめと評価(各係)

○事務事業の評価に基づく重点施策の評価(学校教育係)

③ 学識経験者からの意見聴取 (6月)

④ 点検・評価についての審議及び決議 (7月教育委員会定例会)

⑤ 点検・評価報告書を柳津町議会へ提出 (8月議会全員協議会)

⑥ 町ホームページ等で町民への公表 (9月～)

柳津町教育委員会事務管理及び執行状況の点検・評価実施要綱

柳津町教育委員会

(目的)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和36年法律第162号。以下「法」という。）第27条の規定に基づき、柳津町教育委員会（以下「教育委員会」という。）が実施する教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象)

第2条 点検・評価の対象は、教育委員会の活動状況及び教育委員会が定める重点施策とする。

(点検及び評価の期間)

第3条 点検・評価は、当該年度の前項に規定する事項について行うものとする。

(資料の整理等)

第4条 点検及び評価に資するため、事務局（法第18条に規定する事務局をいう。以下同じ。）は、第2条に規定する事項について必要な書類を整理する。

(点検及び評価)

第5条 点検及び評価は、前条に規定する資料に基づき、学識経験者の意見を聴取した上で教育委員会において行う。

(点検・評価に関する有識者)

第6条 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、「点検・評価に関する有識者」を置く。

2 点検・評価に関する有識者は、小中学校保護者及び教育関係者等、教育に関し知見を有するものの中から教育委員会が選任する。

(議会への報告等)

第7条 教育委員会は、当該年度の点検及び評価を行った後、その結果をまとめた報告書作成し、これを柳津町議会へ提出するとともに公表する。

(庶務)

第8条 点検及び評価の実施に関する庶務は、教育課学校教育係において行う。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、必要事項は別に定める。

附 則

この要綱は、平成21年2月27日から施行する。

○用語解説

・ICT機器

ICTとは、Information（情報） and Communication（通信） Technology（技術）の略称で、情報通信技術のことであり、ICT機器とは、コンピュータやインターネット、電子黒板、プロジェクタ等のことを指す

・アジリティトレーニング

俊敏性、機敏性、巧緻性を高めるトレーニングのこと

・RST（リーディングスキルテスト）

文章に書かれている意味を正確にとらえる力（基礎的な読む力・読解力）を測るテストのこと

・SSW（スクールソーシャルワーカー）

問題を抱える児童・生徒を取り巻く環境へ働きかけたり、学校に対する支援体制づくりや専門的な助言、関係機関等との連携・調整を行ったりするなど課題解決を図るためのコーディネーター的な福祉の専門職のこと

・SC（スクールカウンセラー）

学校の教育相談体制、児童・生徒指導体制の中で、いじめ、暴力、不登校等の問題行動や、発達の課題、精神科領域の問題、家庭環境や親子関係の課題等、児童・生徒が抱えるさまざまな課題について、児童・生徒、保護者、教職員に対し心理的課題の解決に向けてカウンセリングやアセスメント（情報収集・見立て）、コンサルテーション（専門家による指導・助言を含めた検討）等を行う心理の専門職のこと

・SNS

ソーシャルネットワーキングサービス（Social Networking Service）の略で、インターネット上のコミュニティサイトのこと

SNSには「LINE」「Facebook」「Instagram」などさまざまな種類がある

・NRT

全国的な学力水準を知ることができる全国標準学力検査のことをいう
前年度に学習した内容の定着を確かめる検査でもあり、児童生徒が、どれだけ学習内容を理解できたのか、身についたのかを全国平均と比較して把握ができる

・ Q U

Questionnaire-Utilities の略称で早稲田大学の河村茂雄教授が開発した学校・学級生活への不応、不登校、いじめ被害の可能性の高い子どもを早期に発見できる「楽しい学校生活を送るためのアンケート」という心理検査のこと

学校生活における子どもたちの満足感や意欲、学級集団の状態などを質問紙によって測定するもので、担任は児童生徒や学級の状態を客観的・多面的に理解でき、いじめや不登校、学級の集団としての崩壊などの未然防止に役立てることができる

・ Z o o m

インターネット環境とパソコン等を使って、映像と音声で遠隔にいる相手とコミュニケーションがとれるWeb会議システムのこと

町内小中学校の交流授業でも活用している

・ スクールタクト

紙ではできなかった「動く教材」を簡単に作成したり、タブレットで撮影した写真を一瞬で児童生徒に配布、児童生徒同士で共有するなど、児童生徒、先生の授業をサポートする様々な機能がある授業支援システムのこと

・ T ・ T指導

T・TとはTeam Teaching（ティーム・ティーチング）の略称で、複数の教員が協力して授業を行う指導方式のこと

・ メディアコントロール

メディア（テレビ、タブレット、スマートフォン、ゲーム機など）に接する時間や、メディアに接する内容等を親がしっかり把握し、制限・制御（コントロール）すること

・ ロイロノート

すべての授業で使える「思考力」「プレゼン力」「英語4技能」を育てる様々な機能がある授業支援システムのこと